

【岐阜県八百津町】
令和5年度地域スポーツクラブ“活動体制整備事業
(運動部活動の地域移行に向けた実証事業)

自治体名	岐阜県八百津町
担当課名	教育課 子ども支援係
電話番号	0574-43-2111

1. 自治体の基本情報

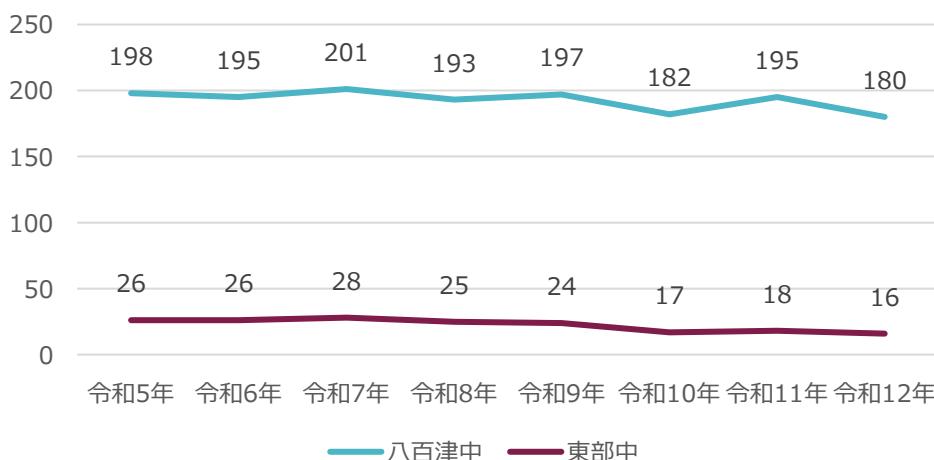
基本情報

人口	10087人	部活動数	13部活
公立中学校数	2校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済み
公立中学校生徒数	219人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定していない

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

町内2校に合計13部活動のうち、運動部活動が12部活存在する。令和4年度は、半数の部活動では、外部指導者がおらず、教職員である顧問が指導を行っていた。2校に同一の部活動も存在するが、山間部に面していることから、合同で行うことも安易ではない状況である。また、生徒数も減少傾向であり、将来的には現在の部活動数の維持は難しい。

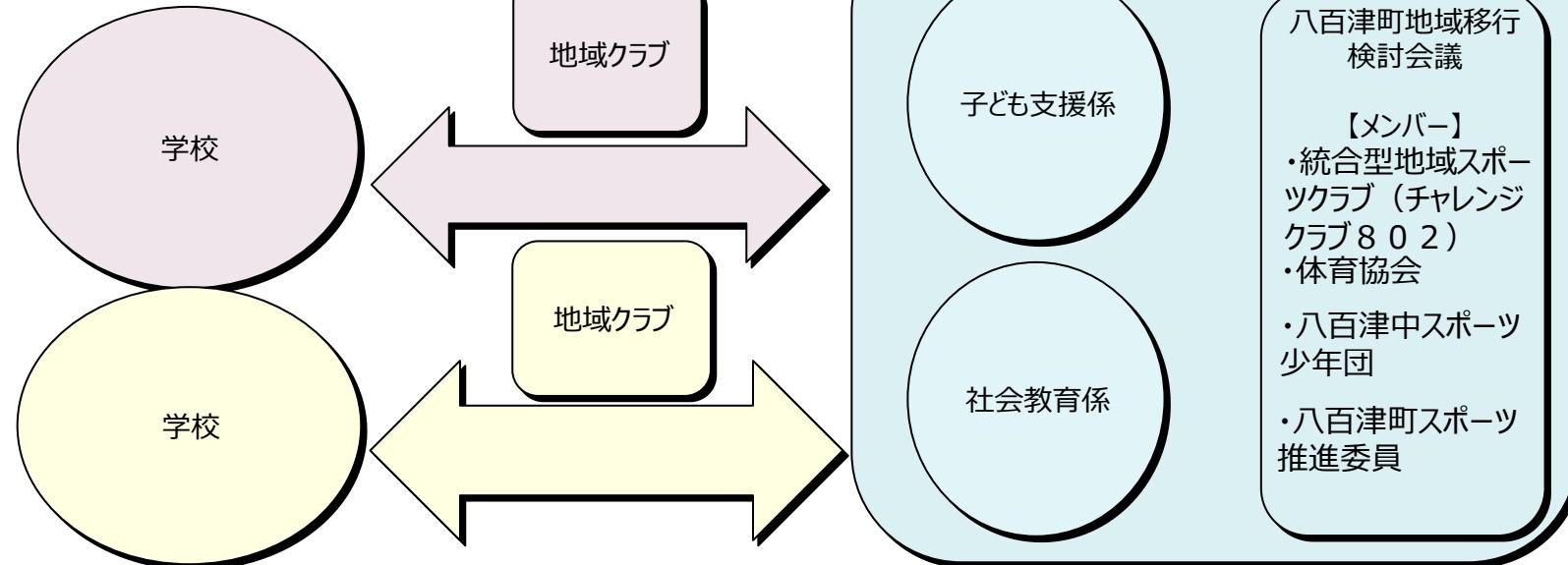
今後の中学生の児童数見込み（人）



2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内の役割分担

● 教育委員会（子ども支援係）

監督・謝金支払い、検討会議の準備調整、学校のヒアリング、保険の手続き、研修手続き、啓発活動

● 教育委員会（社会教育係）

施設の予約、管理、施設管理システムの導入研究、社会体育施設利用者との調整

年間の事業スケジュール

- 5月 第1回協議会議の開催（関係者間の顔合わせ、方針の確認）、拠点校における実施準備、地域スポーツクラブ活動の活動開始
- 9月 第2回協議会議の開催（進捗状況の報告、検討事項の洗い出し等）
- 1月 拠点校等へのアンケート調査実施
- 2月 第3回協議会議の開催（成果報告、来年度に向けた検討課題）
- 3月 事業完了報告書・成果報告書等の作成、令和6年度の地域スポーツクラブ登録の説明会

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

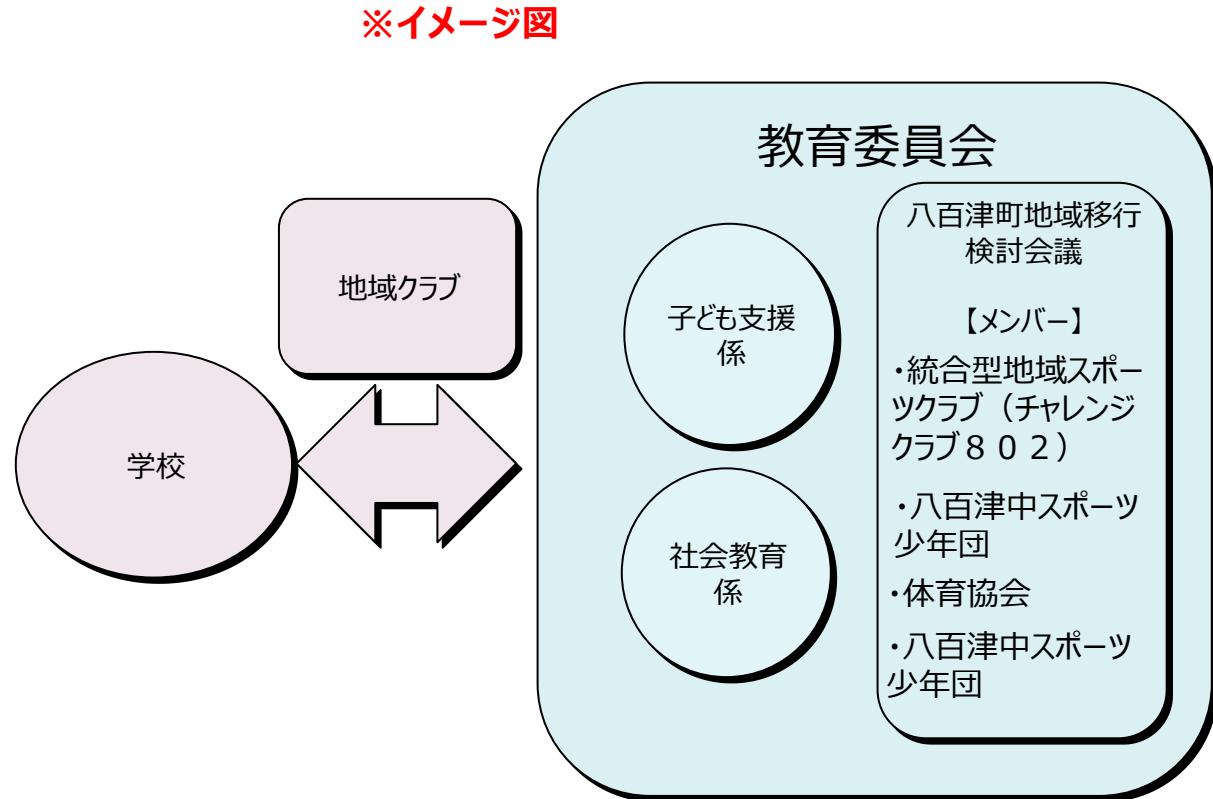
拠点校数	2 校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	バスケットボール、サッカー、軟式野球、バレー、ソフトテニス、卓球、剣道
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	10 部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	八百津中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	7 部活
地域クラブ活動で実施した種目	野球
運営団体名	八百津町地域スポーツクラブ
運営類型	地域団体・人材活用型
1か月あたりの平均的な活動回数	野球：月 4 回程度
指導者の主な属性	民間スポーツ事業者に属する指導者
活動場所	八百津中学校
主な移動手段	車
1人あたりの参加会費等(年額)	野球：10,000 円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒 1 人あたり：800 円/年 指導者 1 人あたり：1,850 円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

オ：内容の充実

イ：指導者の質の保証・量の確保

カ：参加費用負担の支援等

ウ：関係団体・分野との連携強化

キ：学校施設の活用等

エ：面的・広域的な取り組み



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・八百津町部活動地域移行検討会議を開催。関係団体代表者相互の地域移行に向けた方向性及び課題整理。
- ・八百津町の施策や運営等に対し、委員それぞれの立場からの意見を聴取し、八百津町立中学校の部活動を地域移行する。

取組の成果

- ・八百津町部活動地域移行会議を町のスポーツ関係団体（統合型地域スポーツクラブ、体育協会、八百津町スポーツ少年団、八百津町スポーツ推進委員）で構成できることにより、地域移行に向けての道筋をつけることができた。

今後の課題と対応方針

- ・運営規程を制定したことから、指導者、地域クラブ及び事務局となる町教育委員会、中学校との地域移行運営への共通認識を図るため、関係者への丁寧な説明を行う。また移行期における新たな課題には、3者（地域クラブ・中学校・事務局）または、八百津町部活動地域移行会議と連携を図り検討する。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

オ：内容の充実

イ：指導者の質の保証・量の確保

カ：参加費用負担の支援等

ウ：関係団体・分野との連携強化

キ：学校施設の活用等

エ：面的・広域的な取り組み

取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

- 休日部活動を移行するための指導者の確保。
- 上記の確保により、顧問が休日の部活動へ参加する機会を減らす。

取組の成果

地域クラブを導入した運動部活動の顧問14人を対象としたアンケートの結果、9人の先生が令和4年度と比べて、休日部活動へ参加する機会が減ったと答えた。

指導日数については、月に平均2.09日減ったと回答しており、着実に時間外勤務は減っていると思われる。（通常：月に4日、各3時間活動する）
また、専門的な外部コーチが指導することにより、生徒の力が伸びているとの意見もあった。

昨年と比べて休日部活動へ参加する機会が減ったと感じますか



今後の課題と対応方針

- テニス部は、まだ地域クラブの指導者がおらず、早急に配備してほしいとの要望があった。
- 上記のほか指導者の質で差があるとの意見があったため、今後広く八百津町の中学生のために指導ができる人材を探す必要がある。
- 大会での引率や大会運営に関わること、送迎や対戦表の共有など、顧問と指導者との連携が重要だとする意見があったため、ICTの活用等により、対応したい。
- また、指導者の指導方法について、顧問がフォローすることで、生徒の理解につなげている部活動があることが分かった。
- 上記に関しては、新入生に始めて指導する4月などは特に連携を密にする必要があると感じた。

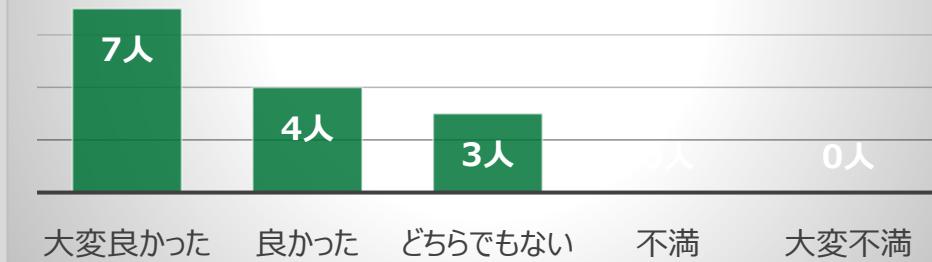
2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

休日部活動が配置が配置されたことに
について、先生はどのように感じていますか
(顧問へのアンケートより)



休日部活動が配置が配置されたことについ
て、子どもたちはどう感じていますか
(顧問へのアンケートより)



2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



【令和5年度】

【実施内容】

- 休日部活動の指導者の確保
- 段階的な休日部活動の地域指導者による指導の開始

【苦労した点】

運営団体の選定に苦慮した。当初は統合型地域スポーツクラブであるチャレンジクラブ802で調整しようとしたが、人手不足や法人格がないなどの理由で厳しいと言われた。

議論を重ね最終的には八百津町教育委員会の管理で地域スポーツクラブを運営していくことが決まった。

【令和6年度】

【実施予定内容】

- 令和5年度で受け皿として決定した「八百津町地域クラブ」として、クラブ登録への円滑な制度移行や生徒保護者等への理解を促進するため啓発活動
- それに伴い、合同部活動、休日の指導の連携等の検討
- ・八百津町型指導体制の検討（他市町村との連携を含む）

【ステークホルダーとの調整】

- 施設の利用の際に他の民間団体との棲み分けを図るため、一部利用の制限を図る調整内容を検討する。

【令和7年度】

【実施予定内容】

- 全部活動で平日は学校で部活動、休日は「地域クラブ」として実施

【令和8年度】

【実施予定内容】

- 課題等を踏まえ、地域クラブ活動の拡大を行う

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ⁹



【岐阜県白川町】
令和5年度地域スポーツクラブ“活動体制整備事業
(運動部活動の地域移行に向けた実証事業)

自治体名	岐阜県白川町
担当課名	教育課学校教育係
電話番号	0574-72-2317

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口(R6.1.1現在)	7, 193人	部活動数	11部活
公立中学校数	2校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置しない
公立中学校生徒数	135人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

1. 本町の現状

- ・本町には2つの中学校があり、部活動変遷の歴史はそれぞれである。平成29年3月に「一般社団法人スポーツリンク白川」が発足して以降、学校部活動と連携した地域クラブ活動の運営団体・実施主体としてその役割を果たしている。今後は学校再編（中学校の統合）を視野に入れ、平日の活動を含めた部活動の地域移行について、本町の実情に即した内容で進める必要がある。

2. 本町の目標

- ・中学校統合を見据え、令和9年度から平日・休日ともにクラブとして実施する。
- ・令和5年度から令和8年度は段階的に移行していく。（県は令和8年度から休日の地域移行を推奨している。）
- ・種類等 ◇現在の種目は維持できるようにしたい。 ◇スポーツ少年団の種目を続けられるようにしたい。 ◇多様なスポーツ活動、文化活動に参加できるようにしたい。
◇多種目・多世代・多志向に対応できるようにしたい。

3. 本町の課題

- ・地域指導者の確保や研修機会の充実のほか、統一的な謝金の在り方（財源の確保）、2つの中学校との連携（活動時間や活動場所など）が必要不可欠であり、運営団体となる一般社団法人スポーツリンク白川の体制強化が課題である。
※具体的には・・・クラブガイドラインの作成、中学校の部活動をどうするか、平日のクラブ終了後の帰宅バスをどうするか（休日の移動支援も含めて）、指導者謝金の財源確保、クラブ運営費の在り方、地域未来塾（学校地域協働活動）の継続と充実 など

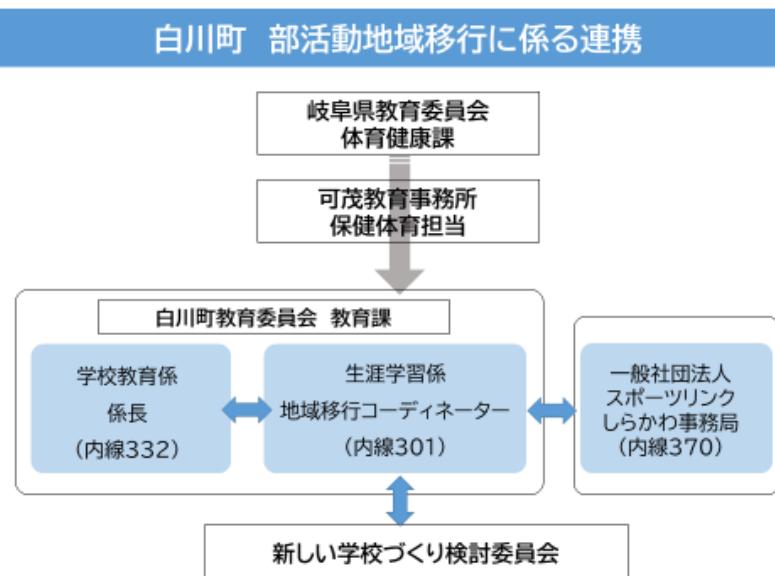
4. 本町の方向性～部活動の地域移行（子どものスポーツ活動）を含めた「まち全体のスポーツ環境の整備」～

- ・町教育委員会、中学校、スポーツリンク白川など関係機関の連絡・調整役を担うコーディネーターを設置し、今後の方向性を踏まえた各種規定の整備を行う。更には中学校の統合を視野に入れた体制の整備について「新しい学校づくり検討委員会」等において協議・検討を進める。

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（白川町における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

● 教育委員会（教育課学校教育係）

- ・白川町の部活動地域移行に係る窓口
- ・県担当課との連絡・連携
- ・「白川町新しい学校づくり検討委員会」の事務局

● 教育委員会（生涯学習係）地域移行コーディネーター

- ・市町村コーディネーターの配置（兼務 1名）
- ・各中学校及びスポーツリンク、関係機関との連絡・調整役

年間の事業スケジュール

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

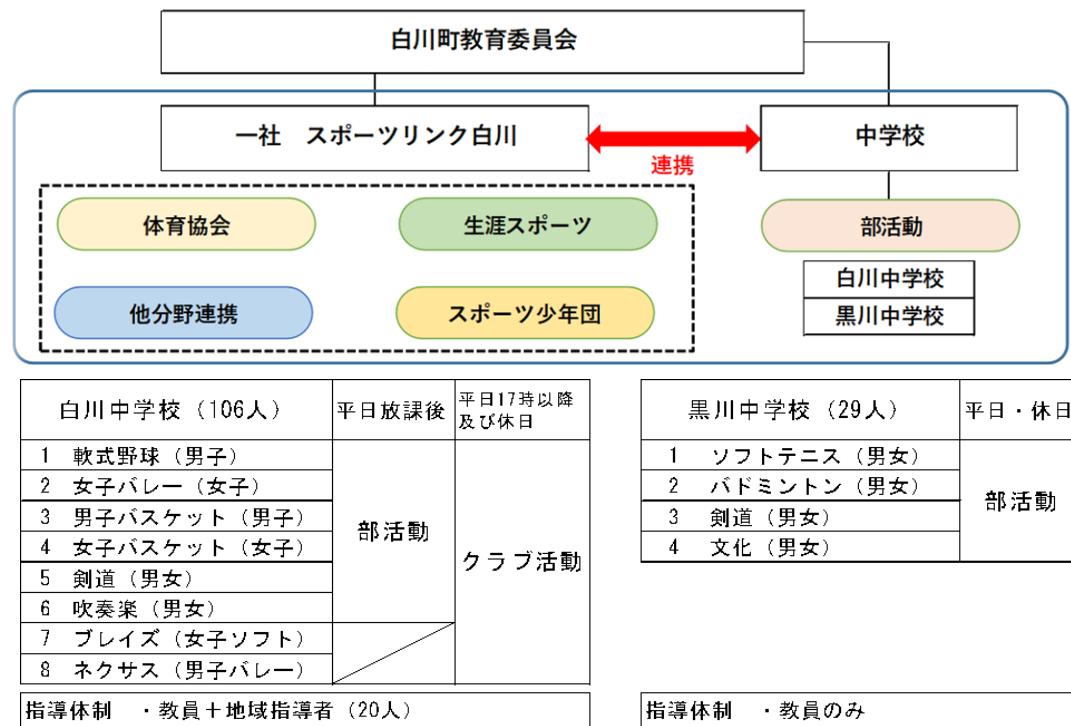
拠点校数	1 校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	軟式野球、女子バレー、男子バスケットボール、女子バスケットボール、剣道
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	5 部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	白川町立 白川中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	5 部活
地域クラブ活動で実施した種目	野球、バスケットボール、バレー、剣道
運営団体名	一般社団法人 スポーツリンク白川
運営類型	地域スポーツ団体等運営型 (総合型地域スポーツクラブ運営型)
1か月あたりの平均的な活動回数	平日：週に2回程度（1回2時間） 休日：週に1回程度（1日3時間）
指導者の主な属性	学校長及びスポーツリンク白川が委嘱する地域指導者
活動場所	町内（白川中学校体育館・グラウンド）ほか
主な移動手段	保護者による送迎又は町が運行するバス（佐見地区スプリングバス）
1人あたりの参加会費等（年額）	スポーツリンク年会費（中学生）：1,000円 各クラブの会費：30,000円～36,000円程度
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

オ：内容の充実

イ：指導者の質の保証・量の確保

カ：参加費用負担の支援等

ウ：関係団体・分野との連携強化

キ：学校施設の活用等

エ：面的・広域的な取り組み



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 市町村コーディネータの設置
 - ・町内 2 中学校と一般社団法人スポーツリンク白川の連絡調整、地域移行に向けた各種調整、規定の検討・整備ほか
- 可茂地区コーディネータとの連携
 - ・管内市町村の地域移行の現状と課題に関する情報交換を開催（2回）

取組の成果

- 第1回部活動地域移行に関する説明会の開催（令和5年6月27日）
 - ・部活動の地域移行に関する関係者 29名が参加
 - 〔各クラブの地域指導者、各クラブの保護者代表、
一般社団法人スポーツリンク白川事務局（運営団体）、教育委員会関係者
 - ①部活動地域移行の現状及び白川町の取り組みについて
 - ②令和5年度指導者謝金について ※情報共有と意見交換を実施した。



特に工夫した事項

- 部活動地域移行に関する白川町の考え方を共有
 - ・部活動の地域移行は、子どものスポーツ活動を含めた「まち全体のスポーツ環境の整備」として考える。
 - ・今後の学校再編（中学校統合）を視野に入れ、平日と休日を合わせた地域移行の構想とし、新しい学校づくり検討委員会において検討を進める。
 - ・白川町としては、休日だけでなく平日の活動 運動部だけでなく文化部 を含めて考えることを共有した。

※町民向けパンフレットの配付（9ページ資料）

今後の課題と対応方針

- 趣旨・活動理念などの周知、白川町「地域クラブガイドライン」の作成
- 中学校の部活動をどうするか（学習指導要領との関連）
- 地域未来塾（学校地域協働活動）の継続と充実

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

- 地域指導者に対する謝金等の支給（統一した謝金等体制の整備）
- 指導者資格（地域指導者ライセンス）取得のための研修費（旅費の支給）

取組の成果

- 地域指導者謝金の調査・研究（実態調査、試算）
〔令和5年度の見込み〕
 - ・地域指導者数 20名（運動部・文化部 計8クラブ）
 - ・7月～11月の指導時間数（実績）1,582時間（79時間／人）
 - ・令和5年度見込み 2,834時間（141時間／人）
 - ・時間単価（委託金の範囲内で算出）370円（見込み）
 - ・謝金総額 1,049,000円
- ※指導者謝金規定の整備
〔令和6年度の見込み〕
 - ・約4,000時間
- ※時間単価1,000円の場合 4,000千円の謝金が必要
- 指導実績の把握
 - ・各クラブ及び各指導者ごとの総指導時間数の把握を行った。
 - ・これにより令和6年度の指導時間及び謝金総額の試算を行った。

今後の課題と対応方針

- 持続可能な指導者謝金の体系 👉 指導者謝金の財源確保（国・県にも補助を要請）
- クラブ運営費の在り方（会費、保険、活動費、補助など）👉 現状把握と方向性の検討
- 地域指導者の確保及び研修機会等の充実 👉 スポーツリンク白川との連携

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 地域公共交通との連携に関する取り組み
 - ・町によるスポーツリンクバスの運行（佐見地区）
 - ・町営自家用有償運送の仕組みを利用した移動手段の確保（佐見地区）

取組の成果

- スポーツリンクバス利用実績
 - ・佐見地区の生徒のクラブ活動後の帰宅の足として約200名の利用があった。
- クラブ活動の充実
 - ・令和4年に佐見中学校と白川中学校が統合したが、スポーツリンクの活動が充実し成績につながっている。（令和5年度中体連において男子バスケットボール部が県大会に出場）
 - ・統合後の生徒アンケートで約77%の生徒がクラブ活動が充実したと回答した。

特に工夫した事項

- 白川中学校部活動育成会との連携
 - ・スポーツリンクバスの運行に関しては、白川中学校部活動育成会において保護者代表及び地域指導者（顧問）との情報共有を行い、バスセンターとの連絡調整等を依頼した。
- 地域公共交通との連携
 - ・長期休業期間中（夏休み等）における送迎として、片道（行き）のみ町によるスクールバス運行を行ったが、帰りについては、保護者による送迎のほか、地域公共交通との連携で帰宅の手段を確保することができた。

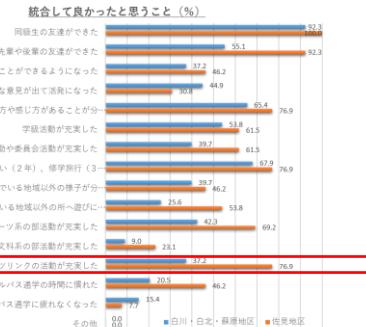
今後の課題と対応方針

- 平日のクラブ終了後の帰宅バスをどうするか（R9.4の学校再編に向けた協議）
- 休日等の対外試合などの移動について何か支援ができるのか

“佐見スポーツリンクバス” 平日便 路線図&ダイヤ案

“佐見スポーツリンクバス”は、学校統合によって、自宅から学校までの距離が大きく伸びる、佐見地区の生徒のために、運行予定のバスです。平日は、白川中学校・リンク活動が終了する19時に、白川中学校を出発します。

平日・帰宅



今、部活動の地域移行が話題になっていますが、なぜこのような提言がなされるようになってきたのか、今後どのような方向に進むのかなど、「ひとなる」の紙面を使って数回に分けて情報提供をしていきます。内容的には全国的なこと、白川町独自のことを織り交ぜてお知らせします。皆様のご理解とご協力によつて白川町のスポーツ環境をさらによくしていきたいと考えています。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）①白川町の中学校部活動改革について

中学校部活動改革について

中学校部活動改革

第2回：部活動は学習指導要領ではどのように扱われているのか

これまでに部活動は何度も変化を繰り返し、その度に課内活動になつたり課外活動になつたりしています。部活動と同じようなものは1947年の学習指導要領には「自由研究」として、1951年には「特別教育活動」として扱われています。1969年には「必修クラブ活動」（課内）と「部活動（選択）」（課外）の二本立てとして登場しました。その後、1989年に必修クラブ活動は部活動で代替してもよいこととなり、やがて1998年には廃止となりました。

現在は、2008年に改定された「生徒の自主的・自発的な参加により行われる部活動については、（略）、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること」を受けついでいます。（下線が部活動とは何かを表している事項）

今年6月に「運動部活動の地域移行に関する検討会議」はスポーツ庁長官に「提言」を提出し（文化部活動は8月）、学習指導要領での扱いを検討すべきことも示しています。しかし、第1回でお知らせした「課題」の方がどんどん膨らんでしまい、学習指導要領検討より先に地域移行を進めなければなりません。

中学校部活動改革

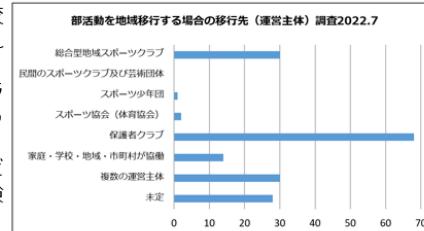
第3回：地域移行する場合の運営主体



第2回で「部活動は学校教育の一環」になっていると書きました。その部活動を地域移行する場合、学校以外のどこが運営主体になればよいでしょうか。考えられるものとして、総合型地域スポーツクラブ、民間のスポーツクラブ、保護者クラブなどがあります。

右の図は7月に岐阜県教育委員会が県内の中学校に、「考えられる移行先」を調査した結果です。これによると保護者クラブ（生徒の保護者による運営）が68件で最も高く、続いて総合型地域スポーツクラブ（本町では「スポーツリンク白川」）が30件というようになりました。

これらを踏まえ、次回以降では町内の部活動がどのように変わってきたかを振り返り、地域移行を検討していきます。



中学校部活動改革

第4回：部活動変遷の歴史（黒川中学校）

部活動のこれからを構築するために、これまでの変遷を整理します。まずは黒川中学校です。黒川中学校の部活動の種類は下表のように平成23年度を境に大きく変わっています。

それまで、運動系は団体と個人の種目がありましたが、生徒数減少により見直しを行い、部活動を持続させることと生徒が種目を選択できることを考え、個人種目の部活動に再編しています。また、指導は原則として学校職員が行うこととして現在もこの体制が続いている。さらに、クラブとの関係は平成19年度から総合型地域スポーツクラブや民間のクラブ活動に個人的に参加する生徒がいます。

生徒数の減少は部活動の持続に大きな課題となっています。

年	全校生徒数	部活動の種類	指導者	クラブ
H19	74	男子野球、女子バーレーボール、女子バドミントン、剣道（男女）、文化（男女）	原則 学校職員	個別で 参加
H20	74			
H21	65	検討を始める	「持続」と「運営」を考 え、個人種目の部活動 に再編する。	
H22	57	後期から（ドミントン部）男女、剣道（男女）、 文化（男女）、剣道（男女）に編成		
H23	55			
R4	28	現在に至る		

黒川中学校の部活動の変遷（平成19年以降）

中学校部活動改革

第5回：部活動変遷の歴史（白川中学校① H13～19年度）

昭和37年に開校し、39年に新校舎となった白川中学校は校区が非常に広く、徒歩、自転車、スクールバス、汽車などで通学するため、部活動の時間は夏期でも1時間程度という短いものでした。

「もっと練習したい」という生徒の願い、「練習時間を確保してやりたい」という教師、保護者、地域指導者の強い思いによって工夫を重ね、白川中学校の部活動は何回も変遷しています。

まず、平成13年ごろから、下校後も保護者の責任で延長部活を行うことが始まりました。はじめは一部の部活動だけでしたが、次第に増え、多くの部活動で行われるようになりました。延長部活の指導も教師や地域指導者（保護者を含む）が行っていました。

その一方で、平成15年ごろから教育委員会では総合型地域スポーツクラブの調査研究や設立準備を始めました。

部活動の種類及び指導者	延長部活とは
男子野球、女子ソフトボール	午後5時から午後7時ごろまで、保護者の責任において部活動を延長
男子バーレーボール、女子バーレーボール	はじめは一部の部活動だったが次第に多くの部活動で実施
男子バスケットボール、女子バスケットボール	剣道（男女）、吹奏楽（男女）
女子ソフトテニス（H19の夏まで）	○ 指導者は原則学校職員、部によっては地域指導者（コーチ）を委嘱
○ 指導者は部活動と同じ	○ 指導者は部活動と同じ

白川中学校の部活動の変遷（平成13年～19年度）

中学校部活動改革

第6回：部活動変遷の歴史（白川中学校② H20～28年度）

総合型地域スポーツクラブの理念は、「多世代」、「多種目」、「多志向」ですが、平成20年度設立のチャオ白川スポーツクラブは主として白川中学校の部活動の「延長練習」や「土日の練習」がこれに該当しました。（その他にはチアダンスなども始まりました。）

スポーツクラブ事務局ができ、活動計画、指導者の委嘱、会費の徴収、保険加入などが組織的に進められました。その取組もあって、部活動（スポーツクラブ）は活気づき、県・東海大会はもとより、平成21年には白中剣道部（女子）、平成25年には白中女子ソフトボール部が中体連全国大会に出場するなど輝かしい結果が出ました。

指導は教職員と地域指導者で行っていましたが、教職員は通常の部活に加え、「延長」も「土日」も欠かさず参加していたため、保護者との連携も強まる一方、部活指導にかなりの時間を奪われていました。

平日	・16時～17時は部活動	・17時～19時はスポーツ
	・週4日（月・火・木・金）	・週2日まで
土・日	・原則、スポーツとするが、部活動扱いも可 ・原則、半日練習（ただし、遠征の実施も可） ・原則、第三日曜と第四土曜は実施しない	

中学校部活動改革

第7回：部活動変遷の歴史（白川中学校③ H29～R3年度）

平成29年3月、体育協会、スポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブが1つになり、「一般社団法人スポーツリンク白川」が結成されました。白川中の部活動においてはスポーツクラブの時とそれほど違いはありませんが、スポーツリンクの活動は幅広くなり、大きく飛躍しました。

しかし、このころから白川中では生徒数減少による部活動の維持が困難になり、女子ソフトボール部がH30年の夏に廃部、男子バーレーボール部がR元年の夏に廃部になりました。替わって、ソフトボールは「ブレイズ」、バーレーボールは「ネクサス」という名称でスポーツリンクの中にスポーツクラブとして新設されました。廃部になつても子どもたちが好きなスポーツを続けられる環境を提供しました。また、黒川中、佐見中の生徒の中にもスポーツリンクのスポーツクラブに参加する生徒が現れました。

さらに、学校の働き方改革が指摘されるようになり、白川中では教職員が指導するものが部活動、地域指導者が指導するものがリンクという暗黙の了解のようなものができています。

そんな中で令和2年、文科省から休日の部活動の段階的な地域移行が提案されました。



2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）②学校再編と小・中学校一貫教育について

白川町民の皆様へ

令和5年1月

白川町の学校再編と 小・中学校一貫教育について Ver.3 部活動

8月24日の新しい学校づくり検討委員会では部活動のこれからについても検討しましたのでその要点をお知らせします。

部活動（Ver.3）と教育課程（Ver.2）には大きな違いがあります。

「部活動は学校教育の一貫として、教育課程との関連を図る（現行の学習指導要領）」となっています。つまり、学校の教育活動ではあるが教育課程ではなく、必ずしも学校職員だけで指導するものではありません。また、部活動は教育課程ではないが、学校の教育活動のため、ケガ等が発生した場合は日本スポーツ振興センターの災害見舞金給付の対象となります。さらに、教員が指導した場合は部活動手当（特殊勤務手当）も支払われています。

学習指導要領における部活動の位置づけは何度も変わってきており、次期改定でどのように示されるか注目されています。しかし、その情報は全くありません。

一方、「まずは休日の部活動の地域移行」が推進されていますが、子どもにとってよりよいスポーツ・文化活動を保障することが目的であり、地域移行はそのための手段と考えるべきです。その点、白川町のこれまでの歩みは教職員、保護者、地域指導者、スポーツリンクなどが一丸となって取り組んできました。

部活動の今後についても、教育課程に関する協議（Ver.2）と同じように、現状や過去の変遷を確かめながら将来の姿を決め、そのために何をすべきかを検討しています。次ページ見開きには「中学校部活動改革」のコラム（教育委員会だより「ひとなる」に掲載）を掲載しました。最後のページには今後の方向を示しています。

内容についてご質問やご意見がありましたら、電話、FAX、メール等で下記へお寄せいただければ幸いです。また、今後も続報を発行したり、地区説明会や保護者説明会を開催したりしていきます。どうぞよろしくお願ひします。

【R5.11 部活動の現状と課題：町内全世帯に配付】

部活動の現状と今後

1 現状



白川中学校（106人）	平日放課後	平日17時以降 及び休日
1 敷式野球（男子） 2 女子バレー（女子） 3 男子バスケット（男子） 4 女子バスケット（女子） 5 剣道（男女） 6 吹奏楽（男女） 7 ブレイズ（女子ソフト） 8 ネクサス（男子バレー）	部活動	クラブ活動
指導体制・教員+地域指導者（20人）		

黒川中学校（29人）	平日・休日
1 ソフトテニス（男女） 2 バドミントン（男女） 3 剣道（男女） 4 文化（男女）	部活動
指導体制・教員のみ	

2 今後の方向及び検討課題

目標

- ・中学校統合を見据え、R9年度から平日・休日共にクラブとして実施する。
- ・R5～8年度は段階的に移行していく。
(県教委はR8年度から「休日の地域移行」を推奨)
- ・種類等：現在の種目は維持できるようにしたい。
スボ少の経験を継続されるようにしたい。
多様なスポーツ活動・文化活動に参加できるようにしたい。
多種目・多世代・多志向に対応できるようにしたい。

運営主体 「スポーツリンク白川」が運営主体となる（スタッフの増員が必要）
活動時間と場所の計画・調整
学校・保護者・生徒等との連絡体制
地域指導者の確保（教員も可）、指導者の研修を実施
地域指導者への謝金支払い事務、その他

検討課題 趣旨・活動理念などの周知、白川町「地域クラブガイドライン」の作成
中学校の部活動をどうするか（学習指導要領との関連がある）
平日のクラブ終了後の帰宅バスをどうするか
休日等の対外試合などの移動について何か支援ができるのか
指導者謝金の財源確保（国・県にも補助を要請）
クラブ運営費の在り方（会費、保険、活動費、補助など）
地域未来塾の継続と充実、その他

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【R5.6.27開催 部活動の地域移行に関する説明会】



【R5.9.1開催 白川中学校部活動育成会】



【佐見中学校との統合により活動が充実した男子バスケット部】



【指導体制が充実している剣道部】

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【クラブチームとして6年目を迎えた女子ソフトボールクラブ】



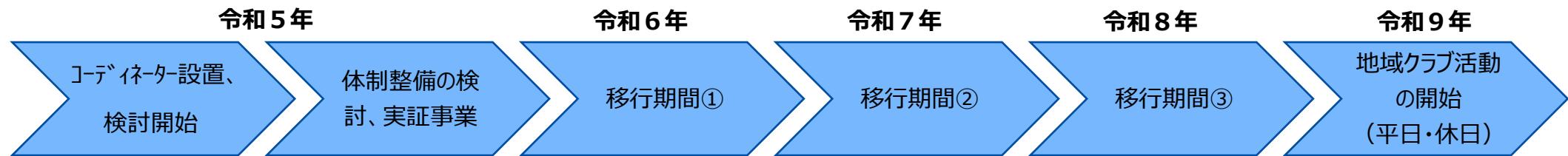
【クラブチームとして5年目を迎えた男子バレーボールクラブチーム】



【平日の移動手段の確保：佐見地区スポーツリンクバス】

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



1. 協議会設置、検討組織について

- ①部活動地域移行に関する説明会の開催
 - 〔経過〕学校、保護者、指導者との情報共有、指導者謝金の支払いについて
 - 〔課題〕定期的な会議の開催
- ②新しい学校づくり検討委員会の開催
 - 〔経過〕第4回会議 (R5.7.24)において「部活動のこれから」と題し、ブレインストーミングを実施
 - 〔課題〕専門部会における細部の検討

2. 体制整備：受皿の確保について

- ①運営団体は、「一般社団法人 スポーツリンク白川」が担う
 - 〔経過〕白川中学校（拠点校）及び部活動育成会（指導者及び保護者会）との連携
 - 〔課題〕スポーツリンク白川の体制強化（現状3名の事務局体制をどうするか？）
- ②部活動の地域移行に関する推進体制は、「白川町部活動地域移行に係る連携」とおり

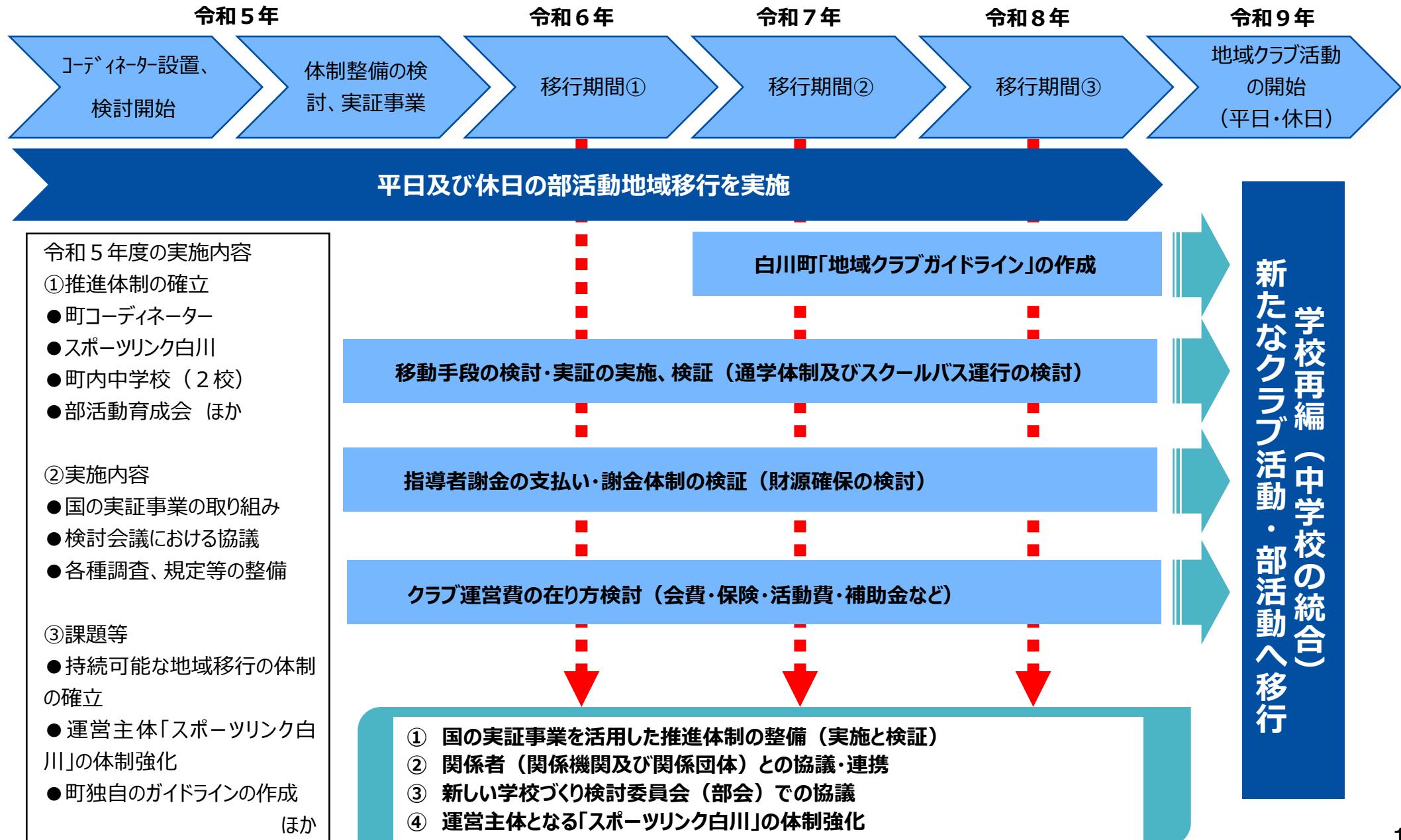
3. 学校現場・保護者等への説明について

- ①学校現場・保護者への説明
 - 〔経過〕町長会及び町議会議員協議会において町の考え方、課題、R5の取り組み等について説明
 - 〔課題〕新しい学校づくり検討委員会における検討状況の公表、保護者向けパンフレット等の作成・配付

新たなクラブ活動・部活動へ移行
学校再編（中学校の統合）

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ



【岐阜県中津川市】
令和5年度地域スポーツクラブ“活動体制整備事業
(運動部活動の地域移行に向けた実証事業)

自治体名	岐阜県中津川市
担当課名	中津川市教育委員会 学校教育課
電話番号	0573-66-1111 (4233)

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	7. 893万人	部活動数	運動部99部活
公立中学校数	12校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	部活動地域移行検討委員会設置
公立中学校生徒数	1. 956人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【現状】

中津川市は旧加子母村・旧付知町・旧福岡町・旧蛭川村・旧川上村・旧坂下町・旧山口村が合併した市であり、非常に広域な市である。市の人口も減少傾向で特に旧町村部での人口減少が進んでる。

かつては、学校単独で複数の部活動を維持できていたが、少子化と部活動の任意加入により学校単独で部活動を維持することが困難になってきている。そのため、中体連等の大会にも他校との合同部活動で参加する種目が増えてきた。

また、休日の活動については、多くの部活動で保護者が主体とした保護者クラブで運営されており、学校職員が行う休日部活動は非常に少なく、保護者クラブについても合同クラブ化が年々進んでる。

野球を例にすると、かつては市内の9校において単独チームが組めていたのが、令和5年度については部活動はあるがチームが編成できず地域クラブとして3チームしかできないという状況である。

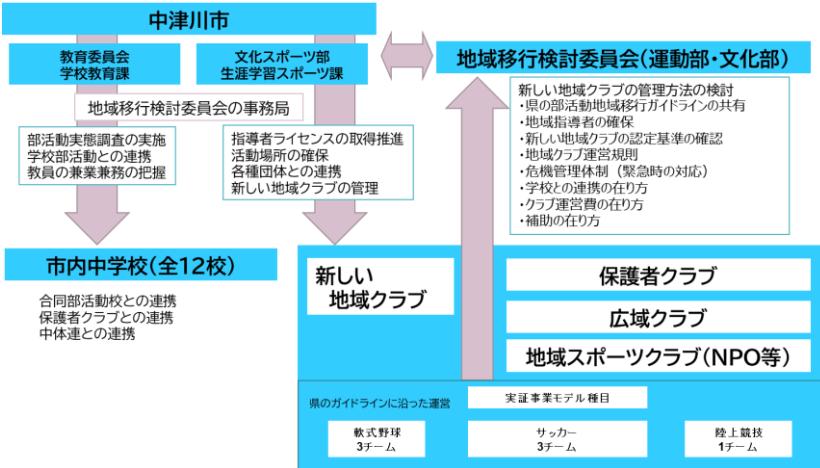
【課題】

現在活動している保護者クラブを新しい地域クラブへ移行していく方針で考えている。しかし、今ある保護者クラブを移行しただけでは人数が少なくチーム編制ができないクラブもあるため、ある程度の統合整理が必要となる。クラブが広域化した際の生徒の移動方法等をどのように保障すべきか自己責任での送迎のみとすべきか検討が必要である。また、指導者や地域クラブに対する補助の在り方をどのようにすべきか、財政面においての課題がある。

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内の役割分担

● 教育委員会（学校教育課）

- ライセンス取得に対する手続き
- 令和5年度については、実証事業参加クラブとの連絡、謝礼金等の支払い処理

● 文化スポーツ部（生涯学習スポーツ課）

- 部活動地域移行検討委員会の開催
- 各団体との連絡・調整
- アンケート調査

年間の事業スケジュール

- 9月：実証事業参加クラブに対しての説明会
- 10月：実証事業、部活動地域移行検討委員会
- 12月：実証事業、部活動地域移行検討委員会
- 2月：実証事業のまとめ

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

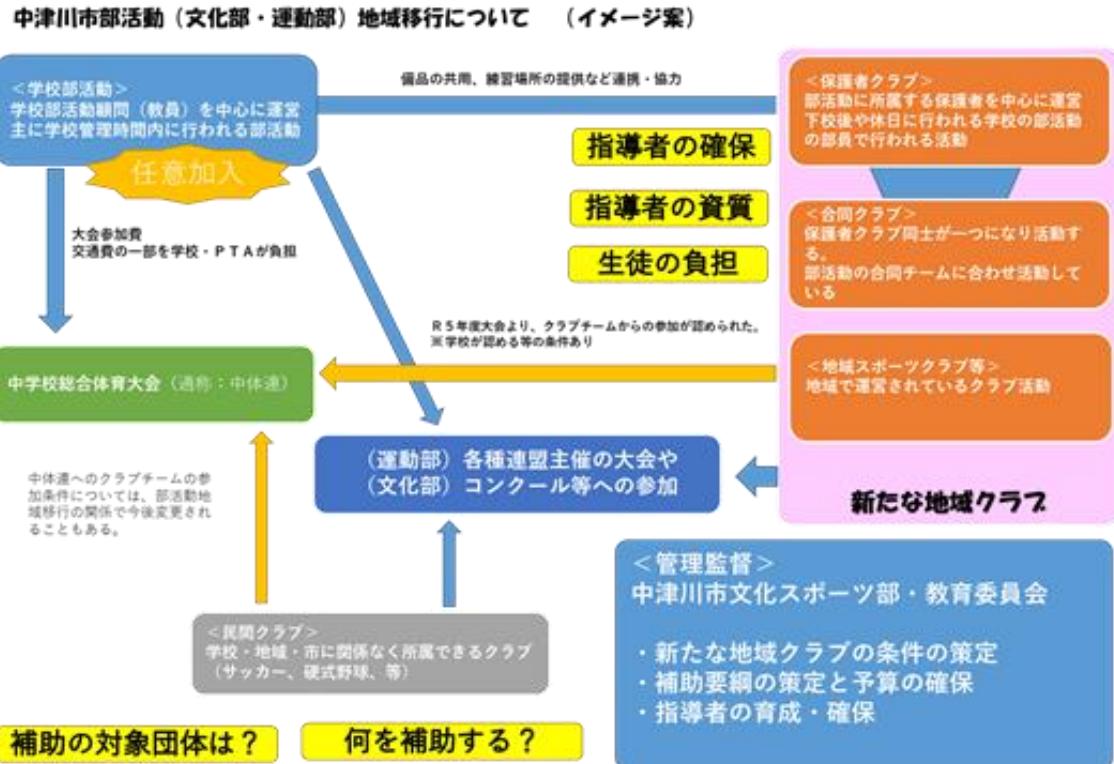
拠点校数	9校 実証事業に参加している部活動ある学校数	地域クラブ活動に取り組んだ種目	サッカー 3 チーム	軟式野球 3 チーム	陸上競技 1 チーム
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	19 部活				

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	第一中、第二中、坂本中、付知中 9校の内、複数の種目が参加している学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	19部活動
地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、野球、陸上競技
運営団体	生涯学習スポーツ課（予定）
運営類型	市区町村運営型（地域団体・人材活用型）
1か月あたりの平均的な活動回数	どのクラブも：月4回程度
指導者の主な属性	社会人・保護者・教員
活動場所	学校施設・市スポーツ施設
主な移動手段	主に保護者による送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	サッカー：24000～36000円 野球：6000～36000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

オ：内容の充実

イ：指導者の質の保証・量の確保

カ：参加費用負担の支援等

ウ：関係団体・分野との連携強化

キ：学校施設の活用等

エ：面的・広域的な取り組み



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・県派遣のコーディネーターと中津川市教育委員会、文化スポーツ部が連携し、連絡調整・指導助言を行う。
- ・検討委員会の企画と運営を行う。

取組の成果

中津川市では、運動部と文化部の部活動の地域移行を検討するために、検討委員会を立ち上げた。

以前より、休日は保護者クラブとして活動が行われてきた実情から、保護者クラブを基盤に、新しい地域クラブへと移行していくことが方向性として共通理解された。

会議では、持続可能な活動するために、どのような課題があるのか確認が進んでいる。

特に工夫した事項

地域移行検討委員会の組織として

中学校長会会長、中体連担当校長、中体連担当者、実証事業参加地域クラブ代表者、市体育連盟代表、中京学院大学代表、文化会館館長など学校関係者にとどまらず、市の運動・文化活動に携わっている方を委員としてお願いし協議をしている。

今後の課題と対応方針

新しい地域クラブの市としての認定基準の策定、新しい地域クラブの登録・管理

地域指導者の育成と発掘（人材バンク）

新しい地域クラブへの補助の在り方について

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

オ：内容の充実

イ：指導者の質の保証・量の確保

カ：参加費用負担の支援等

ウ：関係団体・分野との連携強化

キ：学校施設の活用等

エ：面的・広域的な取り組み



取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

- ・(公財)岐阜県スポーツ協会のライセンス取得を推奨する。
- ・現存する市内約70チームの指導者に対して、休日部活動の地域移行について説明し、地域移行の指導者としての意識を持つもらう。

取組の成果

全中学校を通して岐阜県スポーツ協会のライセンス取得を呼びかけた。初年度ということもあり、研修に参加したしライセンスを取得できたのは2名であった。

特に工夫した事項

実証事業参加クラブの指導者に対しては、ライセンス取得に係わる旅費を補助するなどして受講を促した。
ライセンス取得に係わる旅費を補助することで、希望者が受講しやすくなった。

今後の課題と対応方針

ライセンスが取れる研修会がまだ少ないと感じる。県に対しても年間2回以上の機会を設けていただくように要望をあげていく必要がある。
また、市の新しい地域クラブの認定条件と認定されたときの利点を明らかにしつつライセンス取得を推奨していく必要がある。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

・モデル種目3団体に関連する協会、連盟に対して、中津川市全体の子どもたちを受け皿とするチーム数や活動拠点についてともに検討する。

取組の成果

市の部活動地域移行検討委員会のメンバーには市の体育協会等の代表や市PTA連合会の会長をはじめ、様々な分野の方で組織されている。そのため、共通理解が図られた。

特に工夫した事項

地域移行検討委員会のメンバーに市PTA連合会の代表や、文化会館の館長、中京学院大学の関係者など将来、地域移行の担い手となる団体に参加していただいている。

今後の課題と対応方針

運営団体については部活動地域移行検討委員会にて検討している。

案としては、要件を満たしたクラブについて、市に登録していただき、管理していく予定である。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

オ：内容の充実

イ：指導者の質の保証・量の確保

カ：参加費用負担の支援等

ウ：関係団体・分野との連携強化

キ：学校施設の活用等

工：面的・広域的な取り組み

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：工：面的・広域的な取り組み

取組事項

- ・モデル種目3団体に関連する協会、連盟に対して、中津川市全体の子どもたちを受け皿とするチーム数や活動拠点についてともに検討する。
- ・モデル種目3団体以外の部活動種目について、モデル種目の取り組みを周知していく。

取組の成果

モデル種目3団体の代表者を検討委員会のメンバーとして、取組の様子や運営上の課題等を共有することが出来たが、それを広く周知することは今年度はできなかった。モデル種目については、指導者の確保や運営面の課題について、検討委員会で意見がでた。

特に工夫した事項

モデルとして参加していただいた種目については、広域に活動しているクラブを選出することで、市内広域クラブを見据えた視点から意見を集めるようにした。

今後の課題と対応方針

検討委員会を通して、市としての新しい地域クラブの在り方を整理したうえで、広く、学校・保護者・市民に伝えていく予定である。大きな課題としては、活動場所が遠方となったときの移動の在り方や補助の在り方などがあげられる。また、競技によってはガイドラインを厳守すると練習が成立しない競技もあるため、今後も検討が必要である

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

オ：内容の充実

イ：指導者の質の保証・量の確保

カ：参加費用負担の支援等

ウ：関係団体・分野との連携強化

キ：学校施設の活用等

エ：面的・広域的な取り組み



取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項

モデル種目3団体については、中学校の当該部活動種目の有無に関係なく所属できる組織にする。

取組の成果

今回の実証事業では、陸上競技において学校に関係なく所属できるようになっていたが、野球・サッカーについては学校部活動との関係も有り、合同部活動、合同クラブのまとまりでの活動となった。

特に工夫した事項

実施期間が5か月と短かったために、十分な工夫ができなかった。

今後の課題と対応方針

中体連への参加については、学校単位での参加がベースにあるため、地域クラブで参加するのか、部活動で参加するのかのトラブルが起こることが予想される。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

オ：内容の充実

イ：指導者の質の保証・量の確保

力：参加費用負担の支援等

ウ：関係団体・分野との連携強化

キ：学校施設の活用等

エ：面的・広域的な取り組み



取組内容

▼取組項目名：力：参加費用負担の支援等

取組事項

- ・実証事業を活用しながら、受益者負担と市の援助の適正について検討する。

取組の成果

今年度は、指導者への謝金を、時給1000円支給した。（上限有り）

保護者クラブにとったアンケートでも年間クラブ費については0円～36000円と幅があり、競技によってかかる費用に差がある。

特に工夫した事項

市内の保護者クラブに対して運営についてのWEBアンケート調査を行った。

（任意アンケートのため、全てのクラブからの回答を得られていない。）

今後の課題と対応方針

市内におよそ100の部活動があり、それとほぼ同数の保護者クラブがある当市では、それと同数の地域クラブができる可能性がある。受益者負担と補助のバランスについては、保護者クラブのアンケートを分析しつつ、検討委員会で検討して行く。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

- ・学校施設、中津川市が管理する施設を有効利用する。

取組の成果

中津川市では、以前から保護者クラブの活動場所として学校の施設や市の施設が使われてきたこともあり、実証事業に参加する地域クラブにおいては、スムーズに活動が行われた。

特に工夫した事項

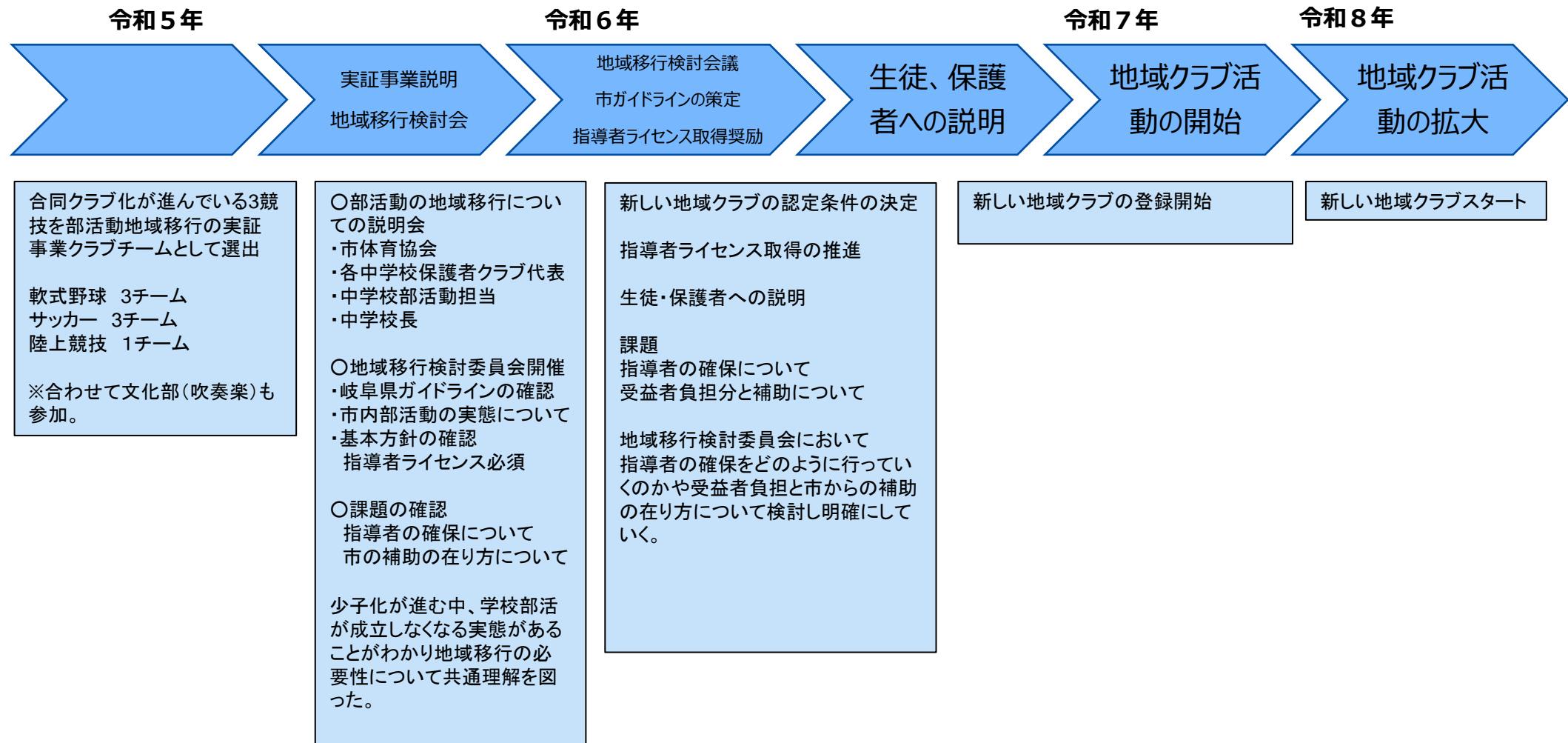
市の施設を中学生が使う場合は、減免している。

今後の課題と対応方針

実証事業では、3種目7団体に参加していただき検証を行ったが、屋外で活動する団体ばかりであった。新しい地域クラブへと移行していくと、室内競技も多数あるため、学校施設等の利用が増えることが予想される。その際、施設管理面において施設の改修等が必要になる場合がある。

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

部活動の実態調査：色がついている部分は保護者クラブ等で休日の受け皿がある部活動

令和5年度 部活動別加入者数(1~3年)																	
部活動種類		第一中	第二中	苗木中	坂本中	落合中	阿木中	神坂中	坂下中	加子母中	付知中	福岡中	蛭川中	種目別	種目別人数		
運動部系	軟式野球	14	17	7	6	6			15		10	10	7	9	92		
	サッカー	18	11		13	25					25			5	92		
	陸上	13	46	22	34						24			5	139		
	ソフトボール				9							5	15	3	29		
	ソフトテニス男子	28	29	19	14	17			8			9		7	239		
	ソフトテニス女子	15	18	13	22	10			7		22	8		8			
	バスケットボール男子	10	14	18	13			14	19		14	18	20	9	206		
	バスケットボール女子	7	11	9	6				7		11	15		7			
	バレー男子	1	14		29		8							4	203		
	バレー女子	11	21	10	23	12	7		16		12	17	22	10			
	卓球男子	33	32	18	26		11		36	9	17	16		9	345		
	卓球女子	17	14	16	30	18	5	18	15	9	1	4		11			
	剣道男子	4	7		9					8		8	8	6	74		
	剣道女子		2		7					7		7	7	5			
	柔道		9											1	9		
文化部系	吹奏楽	17	19						13					3	49		
	美術	25	28											2	53	青枠は地域クラブ	
	パソコン		28											1	28		
	文化				24									1	24		
	家庭科		26											1	26		
	各校部活数	14	18	9	15	6	4	2	9	4	9	11	6	107	1608		

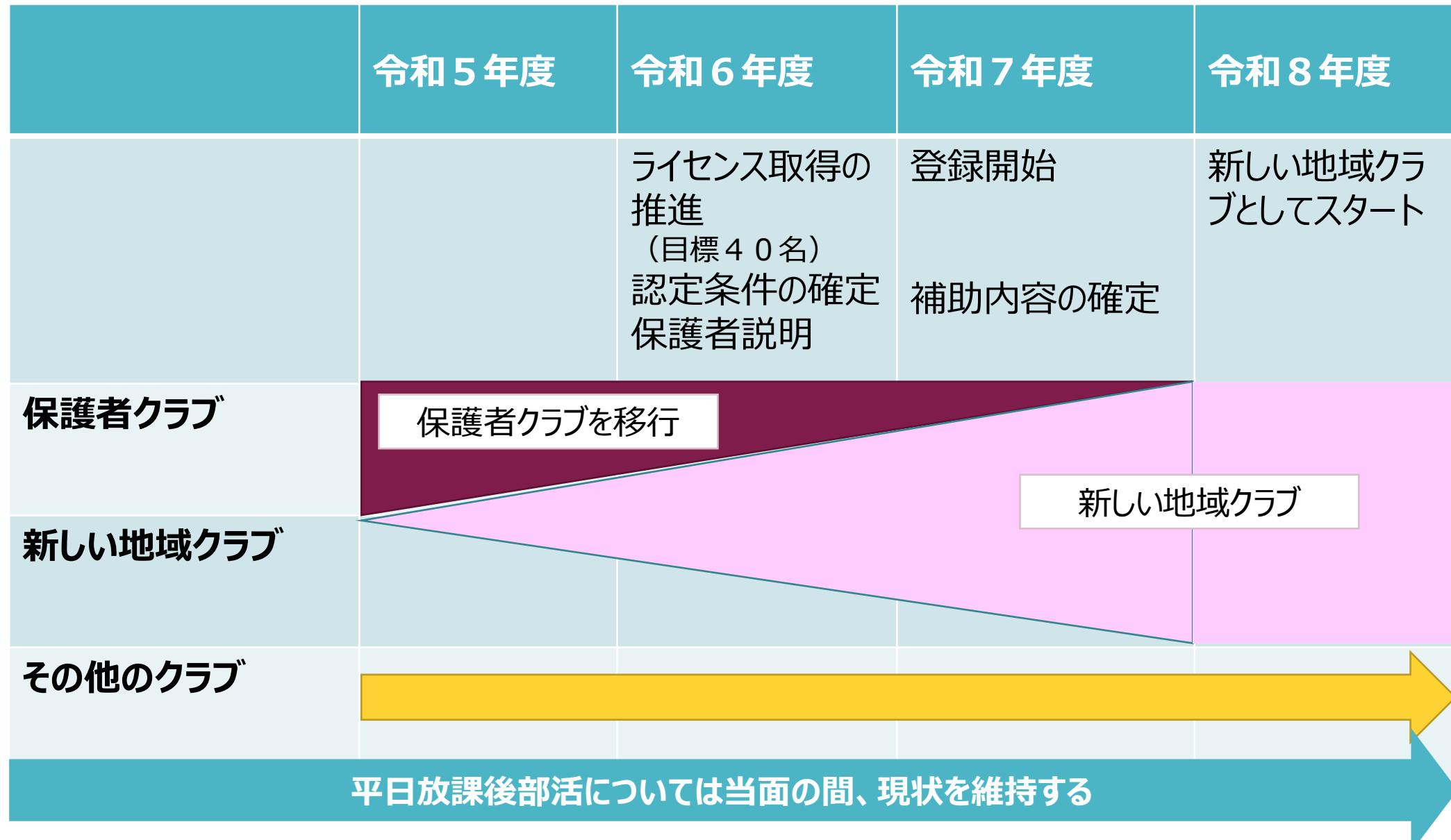
2. 実証内容と成果

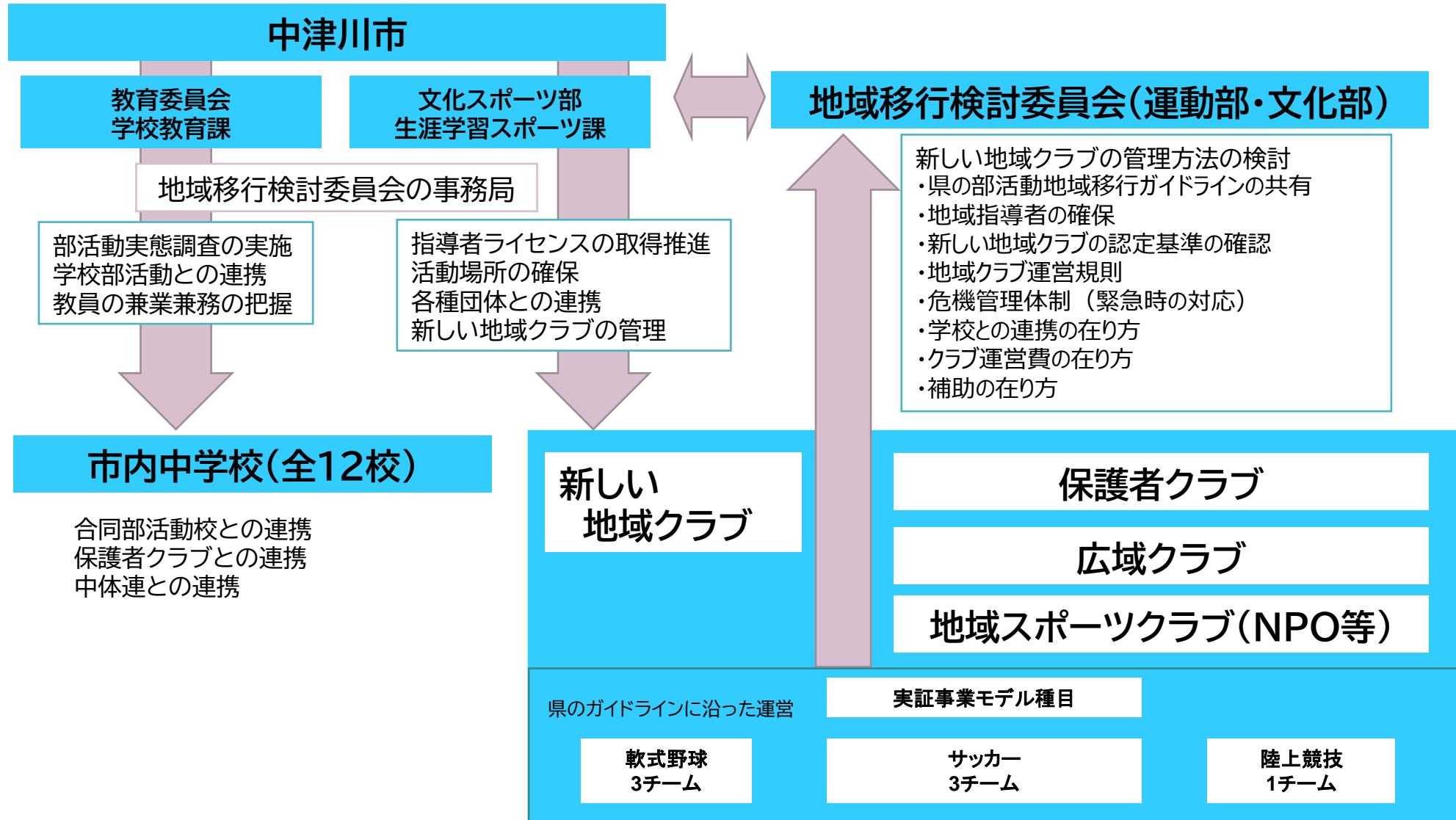
参考資料（活動写真）



3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ⁹





【岐阜県高山市】
令和5年度地域スポーツクラブ“活動体制整備事業
(運動部活動の地域移行に向けた実証事業)

自治体名	岐阜県高山市
担当課名	高山市教育委員会 学校教育課
電話番号	0577-35-3154

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	83,207人	部活動数	90部活
公立中学校数	12校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	中学校部活動地域移行検討委員会（年3回実施）
公立中学校生徒数	2328人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	県のガイドラインを活用 ロードマップを作成

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

【高山市】〈地域移行の現状〉 謝金活用のクラブ2種類

①ハンドボールGlanz飛騨高山

- ・高山市ハンドボール協会が運営主体
- ・指導者はハンドボール協会から派遣
- ・男女それぞれ1チーム
- ・市内誰でも加入可能
- ・中体連にも参加可能
- ・主な練習場所は、飛騨高山ビッグアリーナ及び市内小学校
- ・練習頻度は、平日1日、休日1日（大会前は除く）

②高山中学剣道クラブ

- ・高山市剣道会が運営主体
- ・指導者は剣道会から派遣（教職員も含む）
- ・東西南北の4チーム
- ・市内10の中学校を4つに編成している
- ・主な練習場所は、市内の各中学校
- ・練習頻度は、土日のどちらか1日

【高山市】〈地域移行の課題点〉

①人

- 指導者の確保と質、謝金
 - ・確保については、各競技種目団体と協力して確保に動いている。（人材リスト作成等）
 - ・質については、部活動指導員の研修と同様の研修を計画している。（修了証配付等）
 - ・謝金については、国の実証事業を活用中（今後も活用を検討している）

②物（地域移行後の備品や道具等の扱いについて）

- ・中学校部活動地域移行検討委員会（年3回実施）において検討中

③場所

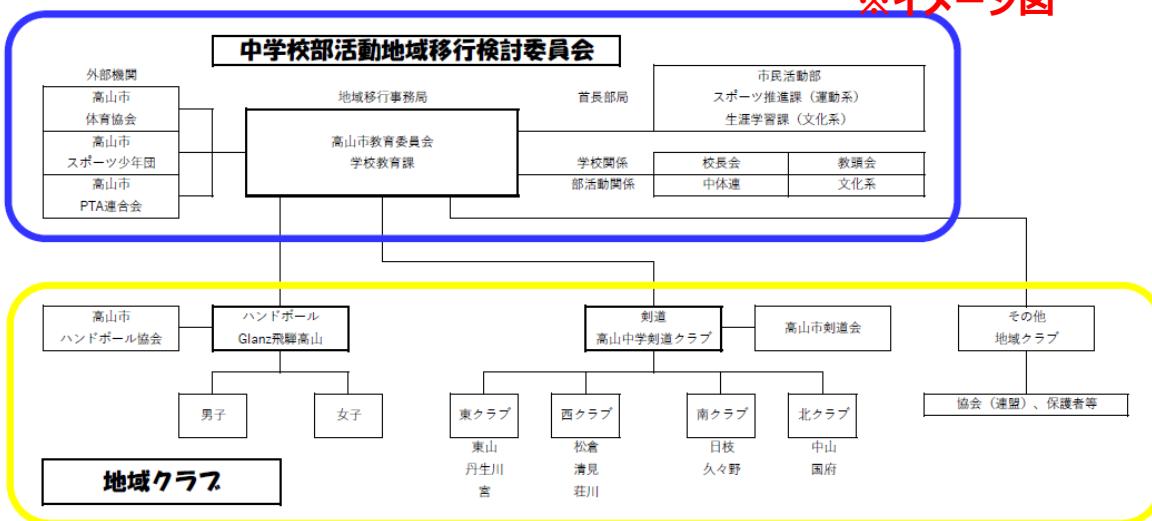
- 活動場所の確保…学校施設を中心に活用していく。（検討委員会で決定）
市施設は他の社会人クラブと同様に予約→抽選を行う
※国の補助を活用し、学校施設の改修を行う計画（入口・セキュリティ・倉庫等）
 - 活動場所への移動について
 - ・支所地域について、旧市内まで来るため距離があるため課題である（検討中）
- ☆全体的な目標としては、令和7年度の中体連後には、すべての部において、「協会クラブ」、「保護者クラブ」等の形で地域移行を完了予定。今後も段階的に進めていく予定である。

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）

高山市地域移行イメージ図



▼行政組織内での役割分担

● 教育委員会（学校教育課）

- ・地域移行事務局（部活動担当主事が主務者）

● 首長部局（市民活動部）

- ・スポーツ推進課（運動系）…検討委員会に参加
- ・生涯学習課（文化系）…検討委員会に参加

※今後、役割分担を検討していく必要有

年間の事業スケジュール

【令和5～6年度のスケジュール（計画）】

☆中学校部活動地域移行検討委員会（6月、10月、2月に3回実施）

～12月…広報たかやまやヒットネットTV（高山市のローカルTV）でPR活動（広報誌に特集、TVにて特集、市の広報広聴課が企画・協力）

2月…新入生説明会において、地域移行について現状を周知（12中学校すべてに資料を配付及び説明を行った）

☆年間通じて…競技種目代表者との懇談（今後地域移行を進めていく予定の競技種目）

指導者は県の研修（年間3回実施予定）に参加し、指導者ライセンスを取得していただく予定（未受講の指導者対象）

4～5月…教職員対象にアンケート調査の実施

5月…地域クラブ指導者研修会（上旬頃に予定）

6月…第1回中学校部活動地域移行検討委員会（6月12日（水））

10月…第2回中学校部活動地域移行検討委員会（10月17日（木））

2月…上旬に新入生説明会（12中学校）にて現状についての資料を配付及び説明

2月…第3回中学校部活動地域移行検討委員会（2月17日（月））

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

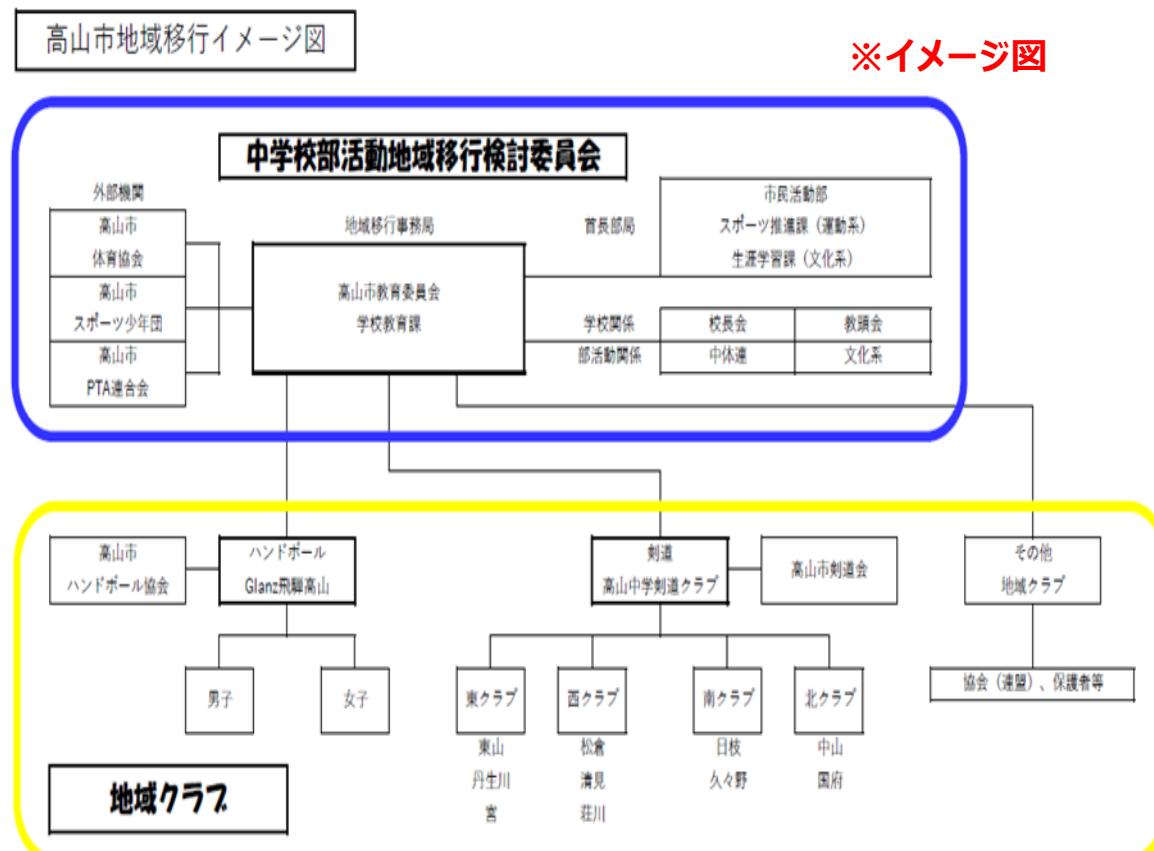
拠点校数	ハンドボール 1 校 剣道 4 校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	ハンドボール 剣道
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	ハンドボール市内の部活 剣道 10 部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	ハンドボール拠点はなし 日枝中、松倉中、中山中、東山中が拠点校
地域クラブ活動に移行した部活動数	ハンドボール…市内誰でも加入可 剣道…10 部活
地域クラブ活動で実施した種目	ハンドボール 剣道
運営団体名	ハンドボール…Glanz飛騨高山 剣道…高山中学剣道クラブ（東西南北）
運営類型	市区町村運営型（競技団体連携型） ハンドボール…高山市ハンドボール協会 剣道…高山市剣道会
1か月あたりの平均的な活動回数	ハンドボール：月 8 回程度（平日 1、休日 1） 剣道：月 4 回程度（休日 4 土日のどちらか 1 日）
指導者の主な属性	各協会員（教職員も含む）
活動場所	ハンドボール…飛騨高山ビッグアリーナ、市内小学校等 剣道…各中学校
主な移動手段	徒歩、自転車、自家用車など
1人あたりの参加会費等（年額）	ハンドボール：60,000 円／年 剣道：0 円／年（検討中）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒 1 人あたり：800 円／年 指導者 1 人あたり：1,850 円／年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

オ：内容の充実

イ：指導者の質の保証・量の確保

カ：参加費用負担の支援等

ウ：関係団体・分野との連携強化

キ：学校施設の活用等

エ：面的・広域的な取り組み



取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組項目

- ・2種目（ハンドボール3名、剣道8名）において11名の地域クラブ指導者の謝金に活用した。

取組の成果

- ①ハンドボールにおいては、男女で3名の指導者に対する謝金に活用した。
 - ・男女ともに県のガイドラインに従って活動を行っている。その中で、女子のチームが、中体連県大会優勝（東海大会出場）、新人戦県大会優勝を果たした。
 - ・協会から派遣している指導者により、専門的な指導が受けられることで、限られた時間の中でも力がつけることができた。
- ②剣道においては、市内で4チーム8名の指導者に対する謝金に活用した。
 - ・教員中心の指導者であるが、市の剣道会にも所属し指導力もあるため、専門的な指導を受け、中体連県大会で上位入賞、東海・全国大会に出場した。
 - ・部活動の顧問は中体連の大会（協力依頼）以外の活動には参加していない。働き方の視点からも成果がある。

特に工夫した事項

- ・剣道について、定期的に合同練習を行うことで、互いに刺激し合って高め合うことができた。また、違うチームの指導者からの指導を受けることができるのも魅力である。地元の高校（西高校）の協力を得て合同練習等を行っている。
- ・剣道について、チーム編成や指導者を定期的に見直す計画がある。
3年を目途にチームの編成・指導者を検討し決定していく。（4チームに2人ずつ配置予定）これによって、いろいろな指導者からの指導を受けられる。

今後の課題と対応方針

- ・ハンドボールにおいて、指導者を3名から4名に増員したい。理由は、男女のチームがあり、現在男子の指導者1名、女子の指導者2名なので、男子の指導者を2名に増やして指導に当たりたいためである。
- ・今後は、地域クラブの指導者に対して、市の研修を行うことで、質のさらなる向上を図っていきたい。（R6に計画・実施予定）

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）



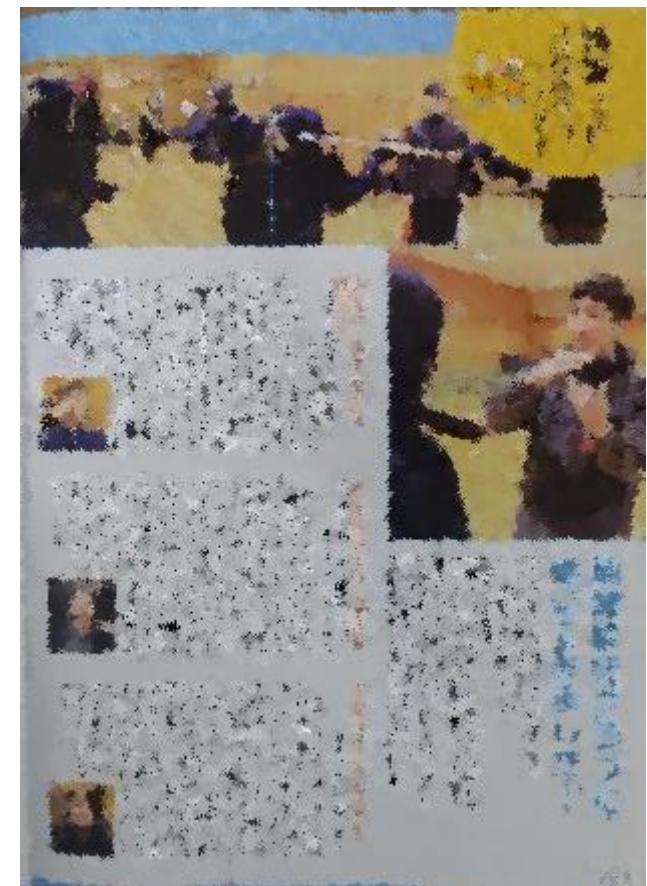
中学校部活動地域移行検討委員会の様子



検討委員会での
プレゼンページ



広報誌
「広報たかやま」
特集ページ



国の方針として…「学校体育施設の有効活用に関する手引き」 令和2年3月 スポーツ庁

（2）活動場所

- 市町村は、新たな地域クラブ活動を行う団体等に対して学校施設、社会教育施設や文化施設等について低廉な利用料を認めるなど、負担軽減や利用しやすい環境づくりを行う。

国の方針として…「学校部活動及び新たな地域クラブ活動 の在り方等に関する総合的なガイドライン」 令和4年12月 スポーツ庁 文化庁

- ア 地域クラブ活動の運営団体・実施主体は、公的のスポーツ・文化施設や、社会教育施設、地域団体・民間事業者等が有する施設だけではなく、地域の中学校をはじめとして、小学校や高等学校、特別支援学校や、施設施設も活用する。
- 乙 都道府県及び市町村は、地域クラブ活動を行う団体等に対して学校施設、社会教育施設や文化施設等について低廉な利用料を認めるなど、負担軽減や利用しやすい環境づくりを行う。
- オ 都道府県、市町村及び学校は、学校の負担なく学校施設の円滑な利用を進めると、学校、行政、関係団体による前記2（2）②の協議会等を通じて、前記イからエまで踏まえた地域クラブ活動の利用ルール等を策定する。

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



剣道クラブ
練習の様子①



中体連全国大会
激励会の様子
(剣道)



剣道クラブ
練習の様子②



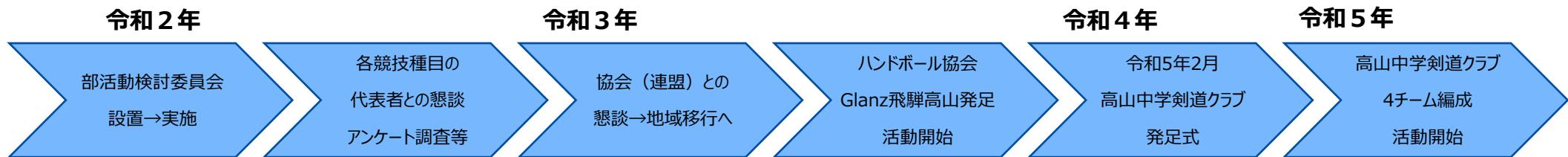
中体連東海大会激励会の様子（ハンドボールGlanz飛騨高山女子）



新人戦県大会優勝（ハンドボールGlanz飛騨高山女子）

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



- 部活動検討委員会（R2～設置→実施）
※年間3回を計画し、これまで進めてきた。
- メンバーの選出（途中で増加あり）
 - ・外部機関に参加を依頼。
(体育協会、スポーツ少年団、PTA連合会)
 - ・学校関係の代表者に参加を依頼。
(校長会、教頭会、中体連、文化系代表者)
 - ・市役所の首長部局にも参加を依頼。
(市民活動部：スポーツ推進課、生涯学習課)
- 令和3年度より、部活動改革について、地域移行の見通しを検討開始（イメージ図作成）
- 手探り状態で始まった地域移行であるが、検討委員会の中で、メンバーから意見をいただき、方向性や地域移行の形について少しずつ決めていった。
- 高山市の特性（広い面積、中学校区が点在、多くの競技種目（文化系も含む）が存在している）を考慮し、子どもファーストで高山市型の地域移行を進める。
- できる地域、競技種目から段階的に地域移行を進めていく。競技種目や協会（連盟）の代表者との懇談を行い、方向性を検討し、段階的に移行してきた。

- 【段階的な地域移行】
- 令和3年度よりハンドボールにおいて、Glanz飛騨高山を立ち上げ、市内から誰でも加入できる「協会主体のクラブ」として、活動を開始した。初年度は中体連には不参加であったが、令和5年度より中体連への参加が可能となる。
 - 実施にあたって生じた課題としては、市内から誰でも入れることはよいが、旧市内の4中学校にしか部活動がないため、他の学校の部について、人数不足が心配される。また、地域クラブには入りたくないがハンドボールはやりたいという生徒があり、その対応に苦慮した。→現在も検討中である。
 - 剣道において、市内を4つに編成し、学校の枠を超えた地域クラブを立ち上げた。高山市剣道会が主体となり、指導者（教職員中心）を派遣してクラブの指導を行っている。
 - 実施に当たって生じた課題としては、支所地域から練習場所までの移動手段が課題となっている。練習場所は、合同で行っている学校をもちまわるようには工夫している。また、3年間をめどとして、チームの編成及び指導者の配置を検討することも計画している。
 - 実施内容としては、ハンドボール、剣道ともに、県のガイドラインを遵守して活動を行ってきた。その中でも、ハンドボールでは女子が県大会優勝、そして東海大会出場を果たした。剣道では、県大会で上位入賞をし、東海及び全国大会に出場を果たした。
 - 2つの競技共通の課題としては、運営費について検討が必要であることと、保護者会（育成会や後援会）の在り方の検討が必要である。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

中学校 休日の部活動【高山市型】地域移行について

2024/2/14

学校教育課

※平日の部活動はこれまで通りしていく

→ ※今後については変更の可能性有

年度/競技種目	運動系部活動														文化系部活動	
	剣道	柔道	バドミントン	バドミントン	バレーボール	軟式野球	サッカー	ソフトテニス	バスケットボール	陸上	卓球	スキー	水泳	新体操等	吹奏楽	その他
それ以前	部活動	市合同部活動(R2)	各校の部で活動、協会クラブ発足(R3)	部活動(3校のみ)	部活動	合同・拠点方式部活動(3チーム)	合同・拠点方式部活動(3チーム)	部活動(3校女子のみ)	部活動	部活動	部活動	それぞれ既存のクラブで活動中(中体連は学校で出場…役員の関係)	それぞれ既存のクラブで活動中(中体連は学校で出場…役員の関係)	部活動	部活動	
令和5年度	高山中学剣道クラブ	Glanz飛騨高山(協会クラブ)	3クラブ開始	部活動	2クラブ開始(男子1女子1)	部活動	※協会クラブ開始(丹生川、久々野、日枝中新入生を含む市内加入可燃で、男子の受け入れも可燃)	保護者クラブで検討中(開始時期を検討中)日枝、松倉、中山、東山の4つ地域を中心に構成を検討中。支所地域については、要相談。	※移行の方向性を検討中(少年団の活用等)	※移行の方向性を検討中(協会と相談中)	県協会(各地域のスキークラブ)で活動(中体連は学校で出場している)	※今後については、検討が必要	※移行の方向性を検討中(合同や拠点方式も考えながら検討中)	部活動	部活動	
中体連後～	高山道場	※部がある学校について、現在検討中	※3校の部において、移行の方向性を検討中	※保護者クラブを中心にして段階的に移行を進めていく	中体連後に地域移行予定	中体連後に地域移行予定(少年団の活用も検討)	中体連後、クラブに日枝中統合	部活動	部活動	部活動	部活動	県協会(各地域のスキークラブ)で活動(中体連は学校で出場している)	※今後については、検討が必要	※移行の方向性を検討中(合同や拠点方式も考えながら検討中)	保護者クラブでスタート予定	
令和6年度																
中体連後～																
令和7年度																
中体連後～	<p>☆すべての競技種目において、何らかの形で「地域移行」を行う見通し</p> <p>※部活動で活動を行うこともあり得る(国の方針)</p> <p>・協会(連盟)クラブ・保護者クラブ・地域クラブ(多様)</p>															
令和8年度	<p>【目指している地域移行の形】☆高山市型の地域移行</p> <p>◎子どもファースト…子どもの活動場所の確保(やりたいことを選択してできる環境づくり)</p> <p>・市一律の地域移行ではなく、子どもや保護者、関係者(市民)のニーズに合わせる</p> <p>・地域や競技種目の特性を活かす(地域中心、合同・拠点方式など)</p>														※イメージ図	
中体連後～															※休日なし(今後については、変更していく可能性有)	

【岐阜県飛騨市】
令和5年度地域スポーツクラブ“活動体制整備事業
(運動部活動の地域移行に向けた実証事業)

自治体名	岐阜県飛騨市
担当課名	飛騨市教育委員会事務局 学校教育課
電話番号	0577-73-7494

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	22,225人	部活動数	24部活
公立中学校数	3校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	528人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向けて準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

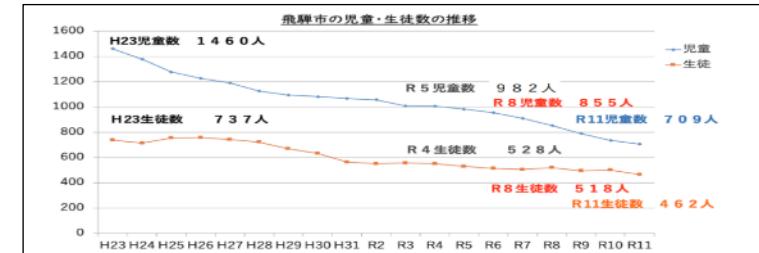
本市では、生徒数の減少に伴い、特に団体で活動する部活動において、部員の確保が難しく単独校での活動が厳しい状況にある。そのため、昨年度には、サッカーとソフトボールについては2校、野球については3校による合同部活動を実施した。また、陸上の休日活動について、2校による合同練習を行った。

昨年度に地域部活動推進協議会を設置し、これまで7回の協議会を実施している。

今年度、地域クラブ活動に対する方針として、地域におけるスポーツ系・文化系・まちづくり系の活動を通して、スポーツや文化芸術、地域の特色を生かしたまちづくりにつながる取組に親しむことができる多様で持続可能な環境を整えることと位置付けた。そして、現在、部活動数が多いスポーツ系活動の運営団体・実施主体の運営体制の整備や人材確保など、多様で持続可能な運営ができる組織体制の整備等に関するコーディネート業務を民間へ委託し、コア会議を中心に民間と行政との協働で取り組んでいる。

現在、本市が抱えている検討課題としては、

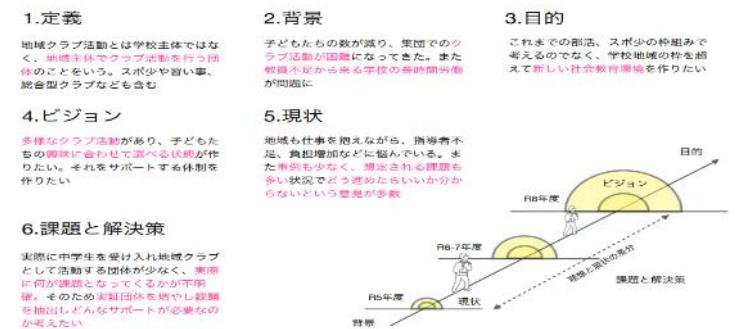
- ・多様な活動を生み出す環境と持続可能な運営ができる組織体制の構築。
 - ・市内の3中学校は、遠い所では50km程離れているため、生徒の送迎方法。
 - ・指導者に対する資質向上のための研修の受講や資格取得について促進。
 - ・参加費等の適切な設定など、保護者負担経費の軽減、ならびに、運営団体支援の在り方。
- など、協議を重ねる度に、解決すべき課題が明らかになってきている。



<部活動で生じている問題点>

- ・学校（規模）によって選べる種目（数や種類）がちがう
- ・希望する種目（活動）がない場合があり、新しい種目をつくるのが難しい
- ・種目（活動）の強度や時間の多様性がない（気軽にできる、高い目標を目指すなど）
- ・指導者の確保が難しい（競技や指導経験がない顧問教員、地域の指導者不足など）
- ・教職員の時間外勤務や無償ボランティアで支えられている…「教員数の減少」により困難に
- ・スポーツ少年団においても、メンバーの減少により活動の維持が難くなっている

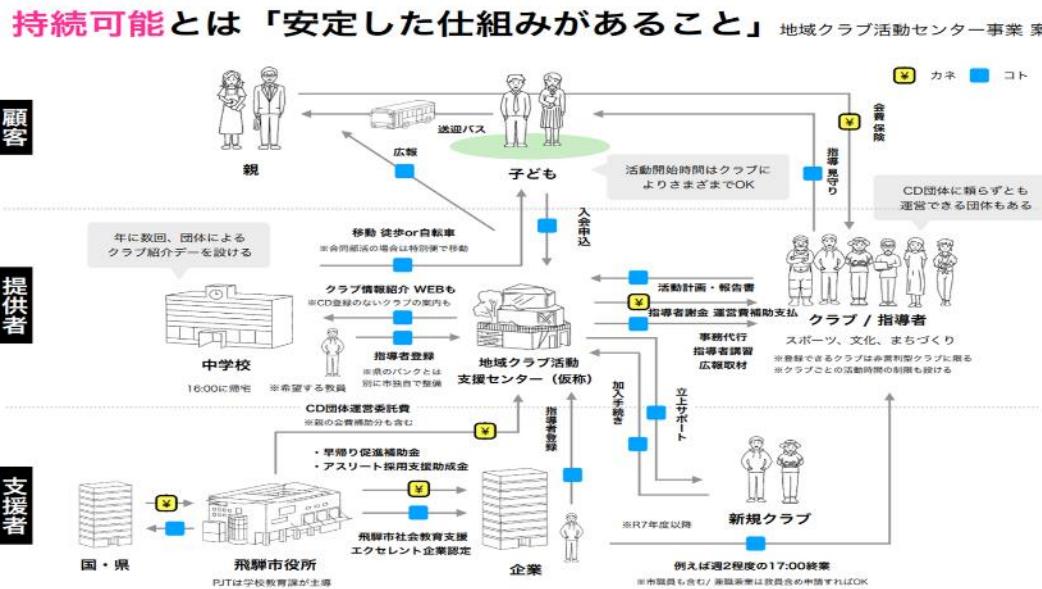
R5年プロジェクトの論点整理



2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



年間の事業スケジュール

プロジェクト推進の3ステップ

	STEP1	STEP2	STEP3
	R5年度	R6-7年度	R8年度
活動主体	検討期	移行期	発展期
	学校 可能な部活は土日から移行	学校部活 地域クラブ等 土日移行順次平日も	地域クラブ
サポート主体	行政 学校教育課	行政 地域クラブ支援室（仮称） スポーツ振興課／生涯学習課	民間団体（行政委託） 地域クラブ支援センター（仮称）
選択肢	既存の活動	多様に スポーツ 文化 まちづくり	多様に スポーツ 文化 まちづくり
	②現状	③課題と解決策	①ビジョン

R5年度プロジェクトスケジュール

↓ 実証に向けた関係団体との協議開始

	詳細	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【1.プロジェクト設計】													
プロジェクト設計	ゴール設定、チーム編成、スケジュール作成												
ビジョンづくり	ヒアリングや実践を通して見えてきたことを随時反映（地域像と体制）0.5→1.0へ	●0.5				●0.8				●1.0			
課題整理	ヒアリングと実践から見えてきた課題を随時反映	●一時整理				●2次整理				●3次整理			
【2.関係者での協議】													
コア会議（クラブコア）	プロジェクトに必要な協議、企画を行う 15:00-16:30 / 月2回	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
地域部活動推進協議会	関係者への成果共有と課題協議を行う 19:00-20:30 / 年3回				●6/29 領会せ 方針確認			●10/2 進捗報告 検討事項洗い出し			●2/5成果共有 課題整理		
【3.関係者への説明】													
教員向け説明	方針説明、兼業申請についての説明							●					●
児童保護者向け説明	方針説明、今後の見通しについての説明								●				●
地域指導者向け説明会	方針説明、今後の見通しについての説明				●		●						

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

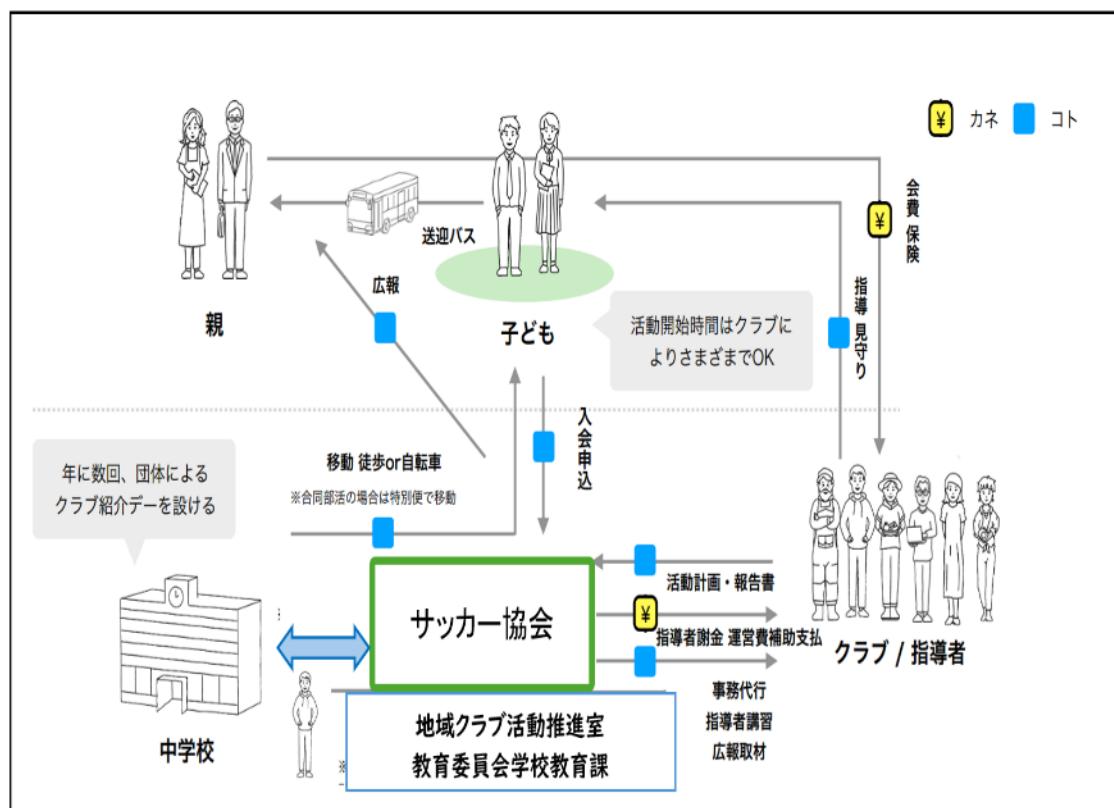
拠点校数	1 校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	サッカー
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	1 部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	古川中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	1 部活
地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営団体名	古川JYSSスポーツクラブ
運営類型	地域スポーツ団体等運営型(スポーツ協会運営型)
1か月あたりの平均的な活動回数	サッカー：月 8 回程度
指導者の主な属性	飛騨市サッカー協会
活動場所	飛騨市杉崎公園グラウンド
主な移動手段	2中学校間移動車、自転車
1人あたりの参加会費等(年額)	サッカー：60,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒 1人あたり：800円/年 指導者 1人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

工：面的・広域的な取り組み

■ オ：内容の充実

力：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク；その他の取組



取組內容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

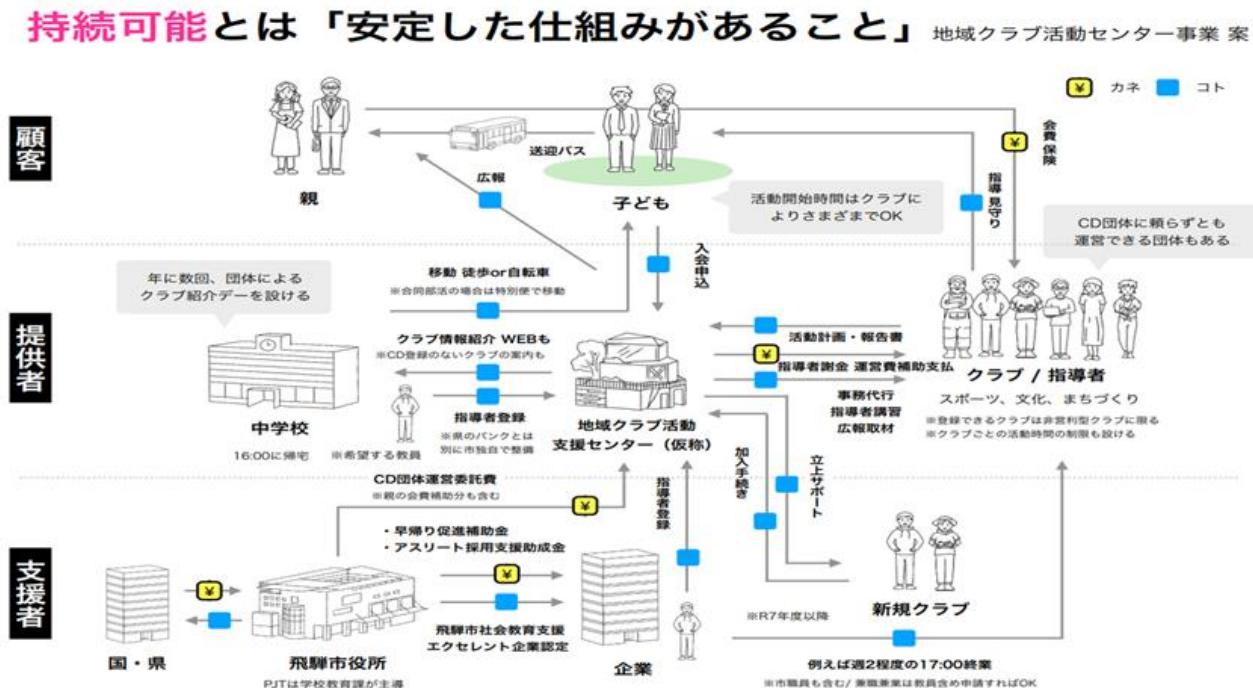
民間業者の株式会社Edoへ飛騨市の実態に応じた地域クラブ活動運営団体・実施主体の運営体制の整備に向けて、運営団体への聞き取り調査や実態・課題把握、地域部活動推進協議会の運営など、令和8年度から実施する予定の飛騨市地域クラブ活動の全体設計を委託し、ビジョンとロードマップをまとめた。人口減少、少子化が進む中、「子どもたちにとってどうか」を議論の中心に据え、学校や地域それぞれの実情を踏まえ、子どもの成長が促進される持続可能な新たな社会教育環境や仕組を再構築する。

取組の 成果

地域クラブ活動コア会議や地域部活動推進会議、市民への「地域クラブ活動移行説明会」、実施主体となる団体への「地域クラブ活動実証事業団体募集説明会」等を通して、様々な意見を把握し現時点でのビジョンを描くことができた。

特に 工夫した 事項

地域クラブコア会議を毎月2回実施し、地域クラブ移行説明会や地域クラブ活動の先行実施に向けた取り組み内容を協議し準備した。その結果、来年度に予定している「地域クラブ活動実証事業」への多数の応募につながった。



今後の 課題と 対応方針

ビジョンを具現するためには、上記に示したような地域クラブ活動運営事務局「地域クラブ活動支援センター（仮称）」が必要であることが多くの方の意見により明らかになった。そこで、来年度は、まずはその事務局の役割を明確にし、具体的な業務内容を整理する必要があるため、地域クラブ活動推進室を学校教育課内に設置し、推進担当者を中心に取り組む予定である。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

現在、種目によってはスポーツ少年団で小学生と一緒に活動している中学生がいることを踏まえ、今後、中学校部活動の地域クラブ活動への移行を進めていく上で、スポーツ少年団は実施主体となる可能性がある。そこで、スポーツ少年団の指導者への聞き取り調査を実施し、地域クラブ活動の運営団体に担ってほしいことや現在抱えている課題について把握し、今後の指導者研修の在り方を協議し、実施に向けた準備を行った。

取組の成果

自身の団体が地域クラブ活動を進めていくことを考えた時、①活動を支援する組織に対してどのような機能が必要か②現在抱えている課題について、8つの団体に対して、ヒアリングを行った。その結果、①については、選手登録や会費の徴収等の事務機能全般、会員獲得支援といった機能、②については、団員の減少や指導者の不足といった課題を把握することができ、それをベースにコア会議で議論を重ね、ビジョンを作成することができた。

特に工夫した事項

地域クラブ活動への移行は、これまでに実例のない取組であり、理解をいただくことは容易なことではないことは予想できたため、まずは、実施主体となり得る団体の声を大切にした。新しい社会教育環境を地域と一緒に考え、創りあげていくといった意識を共有できればと考えた。

部活 クラブ スポ少の現状 -各団体の抱える課題-

現在、調査が完了している8つの団体の内、7つの団体で、団員の減少や指導者の不足という課題を抱えており、団体継続が困難になっている。

No	団体名	団体の抱える課題事項
1		現在小学生を対象に活動しているが、団員の減少が課題である（現在の団員は8名）
2		神岡地区的選手の送迎が課題になっている
3		指導者の不足（現在1名）、団員の減少（年少から中学2年まで合計22名、内小学生以下3名）
4		指導者の不足（現在2名） 団員の減少（小2から小6まで16名）
5		指導者の後継者が見つかっていない（現在指導者は3名）
6		指導者が不足（現在4名）であり、部費のみでは指導者の給与が出来ない。各種協会の手続きが煩雑
7		団員の減少（現在小4から高1まで合計8名）
8		指導者の不足（現在3名） 団員の減少（小2から小5まで10名）

今後の課題と対応方針

指導者の質の保証や量の確保は、本市だけの問題ではなく隣接する市町でも同様の課題である。県主催の指導者研修は毎年開催されているが、地元開催でない年もあり、遠方まで行く必要がある。そこで、来年度は独自に地元での指導者研修を実施し、指導者の負担軽減を行うとともに、毎年開催しながら若手指導者の育成にもつなげていきたい。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

市内の3中学校は、遠い所で50km程離れているため、合同で活動する場合には生徒の移動をどのように行うかが大きな課題となっている。

そこで、2中学校間（25km程）に平日2日と休日1日、生徒移動用車両を準備し、春から夏にかけて試験的に運用した。

また、市役所総務課公共交通担当者と連携し、今後、生徒が平日・休日問わず、地域クラブ活動へ参加するための公共交通機関を利用することができないか協議を始めた。

取組の成果

＜生徒移動車両の試験的運行＞

・5月から8月まで、平日の水曜日と金曜日、休日の土曜日に2中学校間を生徒移動車両を運行した。これまで休日のみの参加だったが、平日も参加できるようになった。また、保護者の送迎に係る負担軽減につながった。

＜公共交通機関の利用に関する協議＞

- ・例えば、小中学生の市内における運賃無料
- ・例えば、過疎地域における市民向けサービス乗り合いタクシーの利用

令和5年度 6月分 部活動合同バス運行計画書

下記の通り、バスの運行をお願いします。

日	曜日	行き	帰り	乗車予定人数	運行車両・備考
2	金	15:00	17:50	18:00	7 サッカーチーム6名、剣道部1名 (行き: 村崎グランド→古川中、帰りは逆)
6	火	16:00		18:00	6 サッカーチーム6名 (村崎グランドのみ)
9	金	15:00	17:30	7 サッカーチーム6名、剣道部1名	
14	水	15:00	17:50	7 サッカーチーム6名、剣道部1名 (行き: 村崎グランド→古川中、帰りは逆)	
16	金	15:00	17:30	7 サッカーチーム6名、剣道部1名	
21	水	15:00	17:30	7 サッカーチーム6名、剣道部1名	
23	金	15:00	17:50	7 サッカーチーム6名、剣道部1名 (行き: 村崎グランド→古川中、帰りは逆)	
28	水	15:00	17:30	7 サッカーチーム6名、剣道部1名	
30	金	15:00	17:50	7 サッカーチーム6名、剣道部1名 (行き: 村崎グランド→古川中、帰りは逆)	

左の表は
生徒移動車両の利用計画書

特に工夫した事項

- ・月末までに翌月の生徒移動車両の利用計画を作成し、効率的な試験運行に努めた。9月以降の移動については、送迎や移動に関する経費に関する補助申請に対して半額を補助した。
- ・市役所の公共交通担当者へ地域クラブ活動事務局会議やコア会議への出席を依頼し、市の公共交通機関の現状や今後の地域クラブ活動での活用の可能性について意見を求めた。



(出典) 飛騨市役所 R5.4.1ダイヤ改正

今後の課題と対応方針

- ・生徒移動車両を業者へ委託する方法は、費用負担が大きく、持続的な運用は困難である。また、平日の地域クラブ活動実施時間は、指導者によって指導可能な時間が異なるため、それぞれの活動毎に生徒移動車両を運行することは現実的ではない。
- ・公共交通機関の活用を工夫することで、多様で持続可能な生徒移動方法の在り方を検討したい。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

オ：内容の充実

イ：指導者の質の保証・量の確保

力：参加費用負担の支援等

ウ：関係団体・分野との連携強化

キ：学校施設の活用等

エ：面的・広域的な取り組み



取組内容

▼取組項目名：力：参加費用負担の支援等

取組事項

保護者の地域クラブ活動参加費用負担の支援を以下の通り実施した。

- ・地域クラブ活動として参加した各種大会や遠征の交通費等を補助
- ・地域クラブ活動に参加するために、保護者による送迎費用や公共交通機関運賃に対する補助

取組の成果

これまで、平日や休日の活動に参加するためには、移動費が全て保護者負担だったが、経費の半額を補助したことで、保護者負担軽減となり大変好評だった。

その一方で、できることならば年間を通して、生徒移動車両を運行し、さらなる負担軽減を進めていただけたと助かるとの声が寄せられている。

サッカー部					
事業日程	中学	活動形態	種別	補助額	
4月3日～4月30日	神岡	合同部活動	移動費	4,000	
5月2日～5月27日	神岡	合同部活動	移動費	5,000	
6月3日～8月3日	神岡	合同部活動	移動費	16,000	
9月2日～10月31日	神岡	合同部活動	移動費	21,000	
			合計	46,000	

特に工夫した事項

地域クラブ活動へ移行した部活動はサッカーのみであったが、今後地域クラブ活動へ移行する可能性が高い剣道や野球などの合同部活動も含め、移動費用の補助を行ったことで、より多くの保護者の負担軽減につながった。

サッカークラブ					
事業日程	中学	活動形態	種別	補助額	
11月1日～12月26日	神岡	地域クラブ活動	移動費	15,000	
剣道部					
事業日程	中学	活動形態	種別	補助額	
4月29日～6月24日	神岡	合同部活動	移動費	3,000	

今後の課題と対応方針

参加費用には、活動そのものに対する経費や指導者への謝金、団体運営に関する経費等が含まれる。今後、地域クラブ活動の実施団体が増加していく中で、種目の違いや活動目的・内容や回数など、様々な要因により活動費に違いが出てくることは明らかである。指導者への謝金に関する補助、生徒の送迎に関する補助など、来年度の地域クラブ活動実証事業を通して、適切な支援のニーズを把握したい。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）



＜対象者（ターゲット）＞

- ①学校教職員（本日）
- ②希望する指導者や団体
- ③地域住民（4地区すべて）
- ④保護者と児童生徒
 - ⇒ 入学説明会（現・6年生）
 - ⇒ 次年度のPTA総会や部活動説明会

＜主な内容＞

- ①地域クラブ活動移行の概要
 - ⇒ 理念と目的、今後の見通しなど
- ②地域クラブ活動支援室について
 - ⇒ 令和8年度は「支援センター」
- ③実証事業（先行実施）について
- ④その他（質疑応答）

【実証団体募集についての説明会】



令和5年11月27日
19:00～市役所西庁舎

＜対象者（ターゲット）＞

- ①地域クラブ活動としての実証を希望する指導者や団体
- ②地域クラブ活動に関心のある方
- ③保護者や地域住民

＜主な説明内容＞

- ①実証事業の目的と概要
 - ⇒ 目的と要項、今後の見通しなど
- ②実証事業の期間
- ③実証内容
- ④応募方法
- ⑤その他（質疑応答含む）

支援団体の機能に関するヒアリング -回答結果まとめ 複数回答可-

8つの団体に対して、請け負ってほしい機能をヒアリングした結果、選手登録や会費の回収等の事務機能全般と会員の獲得活動を請け負ってほしいとの回答が多数であった。

No	要望数	機能内容
1	6	会計業務（会費の徴収、コーチへの謝金支払い、大会参加費の支払内等）
2	6	施設管理（施設の予約等）
3	5	団体の管理業務（会員の登録/退会の管理、指導者のシフト、大会への参加登録等）
4	5	会員獲得活動（SNS等の更新、広報用チラシの作成等）
5	4	スポンサー獲得活動
6	4	指導者研修会の開催
7	3	ウェア等の用具の購入（デザインの決定、発注、お金の徴収等）
8	4	自主的な大会の企画・運営
9	3	指導者の確保
10	1	実際の現場での指導

【地域クラブ活動移行説明会の案内チラシおよび資料（抜粋）】

各項目についての説明					
活動場所パターン	参集型	地区別型	巡回型	固定型	他市連携型
一か所に集まり活動					
活動時間	平日	学校に残り活動 (例) 16:30～18:00	移動してから活動 (例) 17:00～19:00	一度帰宅してから活動 (例) 18:00～20:30	
休日		(例) 8:30～11:30	(例) 13:00～16:00	終日（大会日等）	
移動の手段	巡回バス	公共交通機関（バス、電車等）	保護者の送迎	徒歩	自転車
※ 市による運営や補助について検討中					
指導者	市の研修受講者	（市による研修の実施や補助について検討中）			
保険	「スポーツ安全保険」等に加入する				

【地域クラブ活動実証団体募集説明会の案内チラシおよび配布資料（抜粋）】

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【地域部活動推進協議会の様子】



【地域クラブ活動コア会議の様子】 * 地域説明会の様子



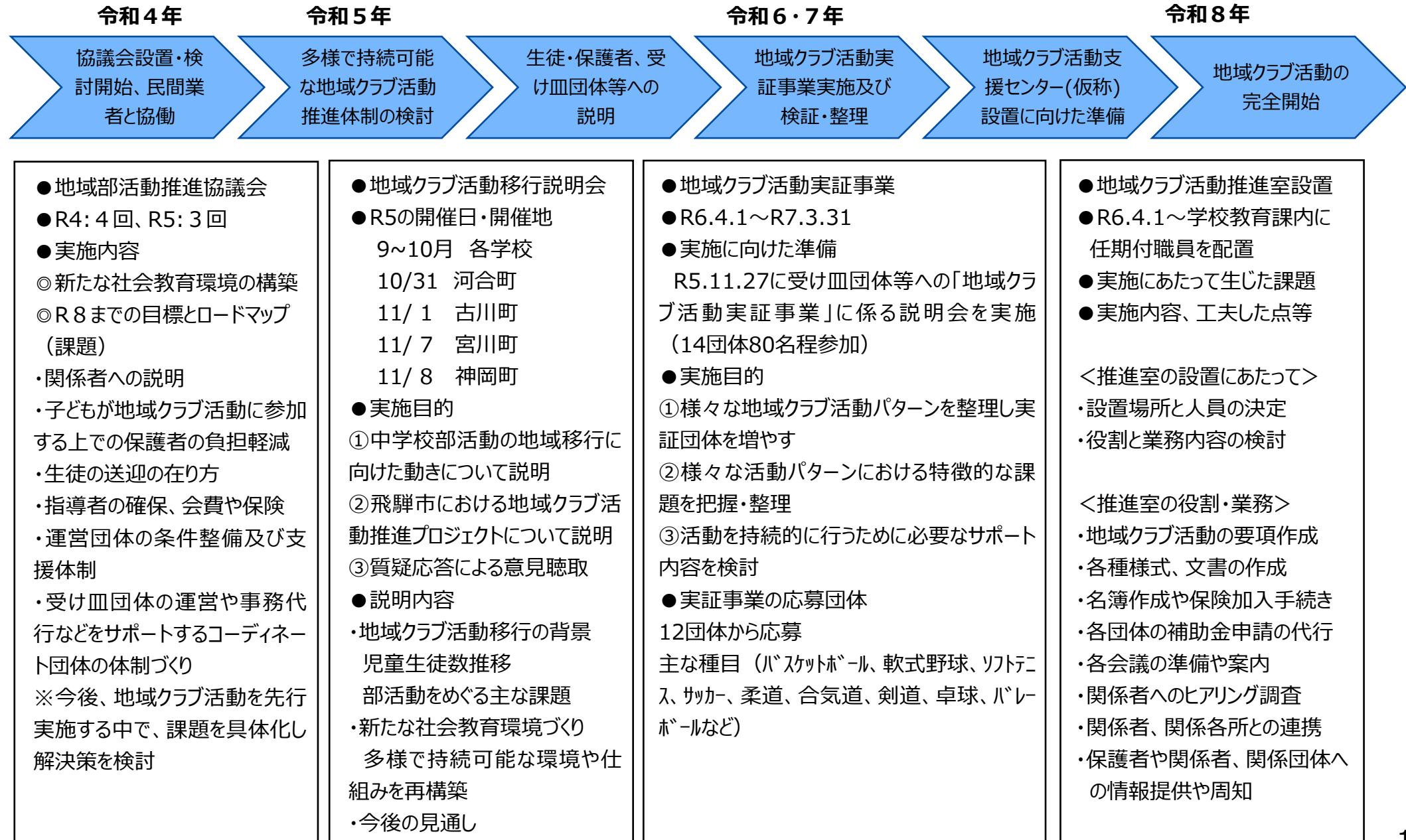
【地域クラブ活動実証団体募集説明会の様子】



【地域クラブ活動の様子】

2. 実証内容と成果

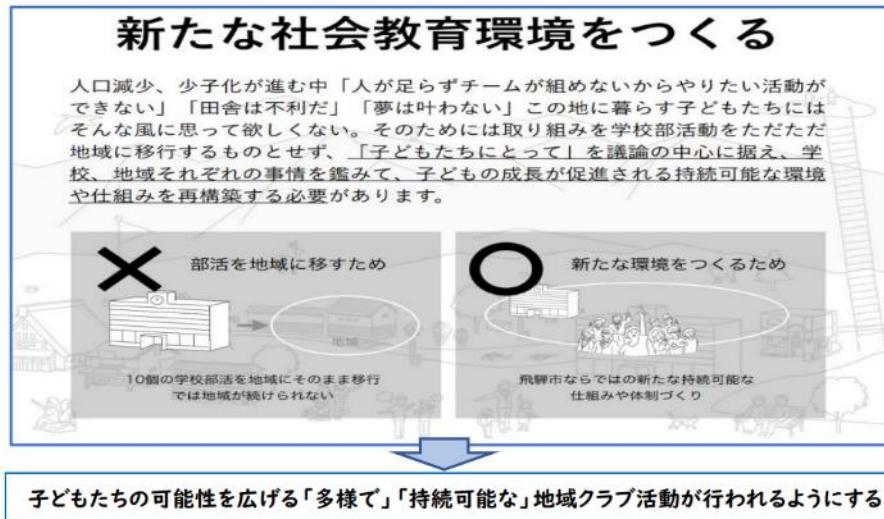
地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ⁹

① 目的（目指すゴール）



② 移行に向けた3ステップ

【検討内容】要綱の作成、指導者の確保や支援（指導者の指導料・謝金等）、会場や移動手段など

	STEP1	STEP2	STEP3
検討期	R5年度	R6-7年度	R8年度
活動主体	部活動	地域クラブ活動	地域クラブ活動
サポート主体	行政 学校教育課	行政 地域クラブ活動推進室 学校教育課	民間団体（業務委託） 地域クラブ活動支援センター（仮称）
選択肢	既存の活動	多様に スポーツ 文化 まちづくり	多様に スポーツ 文化 まちづくり
	②現状	③課題と解決策	①ビジョン

③ 今後の見通し

<改革ロードマップ>

[R5年度]

- ・ビジョン作成
- ・課題整理と対応検討
- ・説明会や懇談会
- ・地域クラブ活動要綱作成
- ・推進室の設置準備



[R8年度]

- ・地域クラブ活動スタート
(部活動廃止予定)
- ・(民間)支援センター活動開始
- ・関係者・協力者の拡充
- ・体制の見直しや評価・改善
- ・R9年度以降の計画



[R6~7年度]

- ・体制や地域クラブの案内
- ・順次 地域クラブ移行の推進
- ・予算の積算と準備
- ・推進室の設置・運営
- ・指導者募集、民間委託準備
(・アンケート調査・検証)

